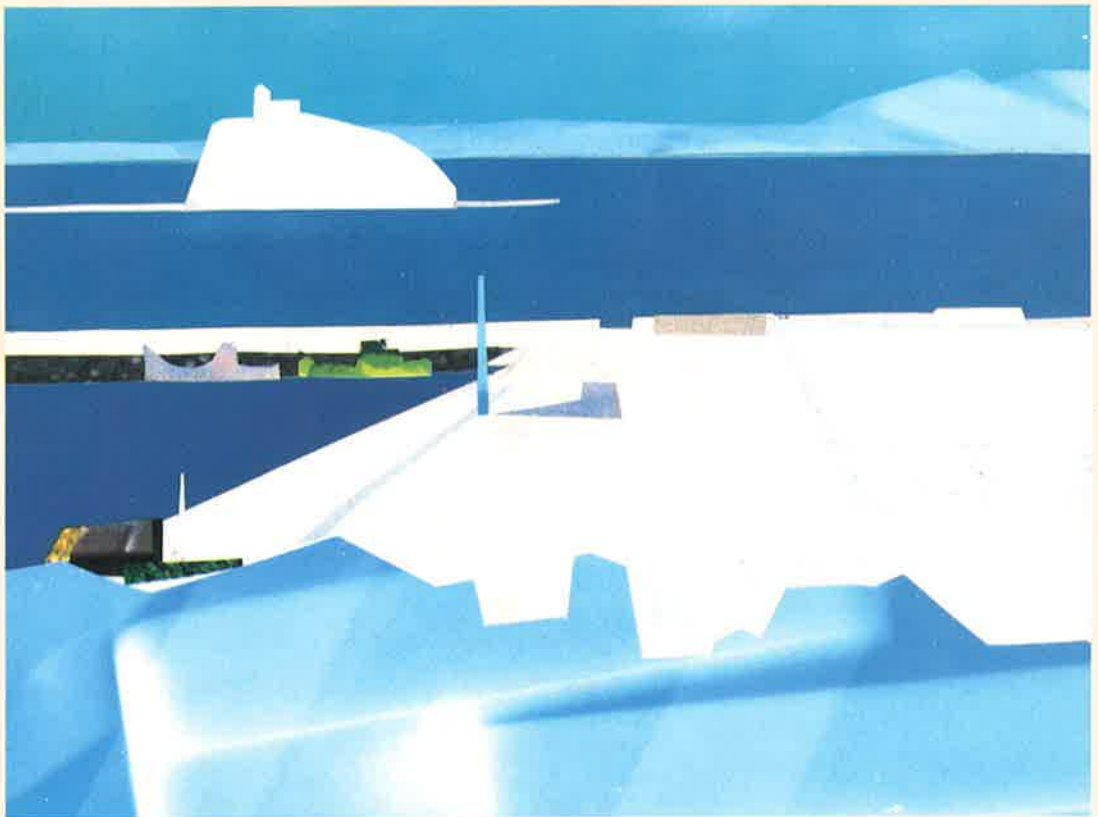


波と鳥

第 11 号 1 9 9 0



室蘭市医師親交会誌

波ノ鳥

第 11 号 1 9 9 0

室蘭市医師親交会誌

目次

表紙 大黒島(ボロモシリ)とエトモ漁港
加藤 治良
カット 竹内 隆一

高田 芳朗 先生 沢山 豊 1

西ヨーロッパ飛び歩く記——絵画鑑賞を中心に—— 藤兼 和男 4

音楽の散歩道

聴くくすり パートⅡ 安斎 哲郎 10

野に吹く風のごとく——万葉東歌四行詩—— 加藤 治良 14

座談会

夏の夜のおしゃべり——カラオケを中心として—— 18

熊谷 弘夫・黒光 康夫・鈴木 久雄・曾根 清孝・竹内 隆一
編集委員(大久保・加藤・児玉・斎藤・三村・村井・沢山)
事務局(高橋・小杉)

あんらくいす

第二十四回北海道ドクターズゴルフ大会に参加して…… 遠藤 秀雄

親交会親睦旅行…… 広瀬 欽也

—— M M M C —— 歴史と浪漫の街小樽を訪ねて…… 鴨井 清一

海の思い出…… 国本 鎮雄

正月は駄目よ…… 上田 智夫

編集室へのお便り

会員異動

元会員の方への編集室からのおねがい

親交会のおもな行事

編集後記…… 大久保 洋平……

高田芳朗先生

沢 山 豊

去る8月の或る日高田先生のお宅にお線香を上げにお伺いした。奥様は茶道の先生で丁度お弟子さんのお稽古中だったが私共夫婦を二階の仏間に案内して下さり、高田先生の遺作の絵が並べられたアトリエと、本棚には一杯詰められた資料のある書齋を見せて頂いた。アトリエには先生愛用のパレットに灰皿の吸い殻も生前のままになって居り、本棚には資料の分類と予定表が書かれたメモが貼っており、キチンキチンと仕事を進めて行く先生の性格がまざまざと思い出されるたずまいであった。

奥様の意向で生前のままの部屋の姿を残して居られる由、奥様の心情が痛い程察せられ胸が熱くなった。

先生のお部屋を見せて貰っている内に先生の在りし日のことが色々と頭の中に浮かんで来た。

絵について

アトリエには先生が描き掛けた未完の絵が多く並べられて

いたが、それらは全て所謂 高田ブルー と言われている明るく暖かみのある色が使われてあった。

彼の色に対する執念とも言えるこだわりは、知る人ぞ知るである。毎年頂く年賀状の印刷を引き受けているF印刷のA氏などもこんな色にして呉れと言われ気に入る色を出すのに相当苦労したと言う話を聞いた。

画家であれば当然と言って丁えばそれまでだが、絵具の配合により色々な色が生まれる訳だが、自分の気に入る色が出るまで何回も遣り直す、本当に納得するまでは止めない。そんな所が芸術家気質とでも言うものか。

奥様の話では亡くなってから見てみたら作品の数が多いにも少ないので驚いたとのこと。完成した作品でも気に入らなくなったら塗り潰して丁い、別な作品のキャンバスとして使用していたそうである。アトリエの画は先生が入院されるまで制作されていたもので、ちよつと見ただけでは完成したものとしか見えない。譲って欲しいと希望する方も多いのですが主人はきつと断わると思いますので差し上げていないんですよと奥様の話。

歌は世につれ、世は歌につれと言うが先生の画も三十年前と比べると微妙に変化しているように思われる。道展の会友から会員になられた昭和三十年代前半に新日鉄病院の一階エレベーター横に永く飾ってあった画は人物画で手術場の看護婦をモデルにした濃いセピア系を主体にした百号の大作だったが、どちらかと言えば暗い感じであった。その後は専ら風景画を描くようになり、洞爺湖を、函館そして室蘭測量山を四季を通じて描き続け、知利別の町を愛し、その画風は独得

のものが、素人の私にも直ぐ彼の画と見分けることが出来た。デッサンについては天賦の才能としか言えないが、色彩については環境とか心情の変化に対応しているように思えてならない。

歌と踊り

彼が新日鉄（当時富士鉄）病院に胸部外科（肺外科）専門医として勤務したのは昭和三十二年である。当時私も三十前でジルバとかマンボが流行って居り、浜町にもダンスホールがあった。

彼は学生時代アルバイトにダンス教師をしていたと言う触れ込みであったが、我々はマサカと言う気持ちの方が強かった。その年の外科の忘年会は室蘭駅前にあった本多旅館のレストランで開かれたが、適当に酔った所でダンス教師の腕前拝見と言うことになり、高田先生の出演となったが、彼は自分等の頃はジルバもマンボも無かったのでワルツを踊って見せ我々を煙に巻いた。ダンス教師の件はどうとう判らず仕舞いであった。

彼はテレ屋と言うか人前で歌ったり踊ったりするのは苦手と言うイメージが強かったが、私共の結婚式の披露宴では、「オタマジャクシは蛙の子」を歌って呉れたのを覚えて居る。「古城」も好きな歌の一つであった。結局は気が向けばと言うことであろう。

二十年程前のことであるが、或る日、「サワさん、踊りを一緒に習わないか」と言われたことがある。余興にやる日本

舞踊で「安木節」は難しいが「おてもやん」なんか覚えて見たいがどうだと言う。私はとてもそんな勇氣は有りませんと断わったが、彼は薬剤のT先生と花柳衛信さんの所に通い遂に物にした。その時もカセットテープに練習の一部始終を録音し、自宅でも復習をすると言う熱心さであった。

院長就任後の忘年会では毎年院長自ら宴会盛り上げに一役買って踊りを披露していたと言う。彼の「おてもやん」は本式の髪にメークをして大受けであったがこれも見れなくなり誠に残念である。

ハダカの付き合い

今では胸部外科と言えば心臓血管外科が主体だが昭和三十年頃は肺結核の手術が全盛期で長期療養で癒着のひどい症例が多く、出血との戦いでもあり、十二時間以上に及ぶ手術も稀では無かった。このことについては彼が二年前に二回にわたり新日鉄病院医誌等にまとめて発表しているが、その別刷を貰い懐かしさが甦ったのを覚えて居る。

彼は御存知の通り八十キロを超す巨体であり手術中も汗が眼鏡を伝わって術野に滴下することもままあり、専属の看護婦が汗拭きをしていた。手術後は必ず手術場の風呂に入るが狭い風呂場に良く一緒に入ったものである。

今の若い人は知らないだろうが、昔の男はトランクとかブリーフなどはかずに越中褌（エッチユウフンドシ）をしていた。私も学生時代は勿論勤務してからも暫くしていたが、当時の外科でこのフンドシをしていたのは私の他には本庄先

生と高田先生であった。最後までフンドシで通したのは彼だけであつたろう。

風呂場で彼は頭を洗つては「サワさんこんなに髪の毛が抜けたよ」と言つて洗い場にたまった毛の束を取つて見せることがよくあつた。そんな時「先生は抜ける毛があつていいですよ、僕なんか抜ける毛も有りませんよ」と言い返したものである。

彼の頭髮はふさふさとしナチュラルウエーブがスマートに見え、恰福の良さとあいまって我々の中でも若さと健康の象徴的存在であつたのである。

PMGとイビキ

彼の若さと言うか活動力は何処から出て来るのかが話題になつたことがある。結局、それは彼が何時何処でも直ぐ眠ることが出来るのが良いのではないかと言うことで落ち着いたようだった。

昔、外科の外來の診察台で昼寝をして居る所をカメラに撮つて見たことがある。只、イビキの大きなことが自他ともに難儀したようだ。講演会とか会議等で横に座つて居てぐあつと突然大きな鼾が聞こえたりするとちよつと恥ずかしい思いをしたことがある。

彼が気軽に話し合えるメンバーを集め楽しいゴルフをしたと始めたPMGは「ポケットマネーをほたいてゴルフをする会」の略号であるが、本庄御大や原田、高島、熊谷先生等開業医と新日鉄病院勤務の医師、薬剤師にプロパーを入れて、

会費を先に貰つておいて、ゴルフ場での飲み食い、途中の食事等も全部賄おうと言うもので大沼、旭川、釧路、ニセコとか泊まり掛けで随分と出掛けたものである。専ら私が幹事役を勤め、会費の徴収からホテルの部屋割まで任せて貰つたが高田先生は一人部屋にするように心掛けた。隣室でも眠れ無かつたとのクドキだか、ヒヤカシも聞こえていたがそれも今では懐かしい思い出である。

ここ数年ゴルフ場やホテルの料金が高くなり、気軽に皆さんを誘うことが出来なくなり回数が減つたのが残念だった。イビキについて先生に野暮な質問をしたことがあるが、奥様も淋しい思いをされて居ることである。

クドキのたーさん

医学部同期の先生や同門の古い先生方は御存知のことらしいが、彼は医局時代から「クドキのたーさん」と言われて居たようだ。

帯広中学時代より美術の才能を認められ、実家の印鑑彫りにも優れたものを持ち乍ら東大を目指して頑張つたが、挫折し北大に入った経緯からも判るようにその理想は飽くまでも高い所に置いて居り、それが達成出来ない時についグチが出るものようである。

私は良く院長室にお邪魔してはクドキを聞いていたが、決して理不尽なクドキで無いように思われた。

例えば少し差しさわりのあるかも知れないが、先年札幌で行なわれた外科学会のシンボルマークのデザインを懸命に考

え、回りの文字の中にスズラン、ライラックを入れたセンスの高いマークをデザインし出したところ、回りの文字だけ使わせて欲しい、中には別なものを入れると言われ、出来上がったものは彼の意とはかなり違ったものにならってしまったと言ふようなことである。

彼は決して自分を自分以上のものに見せようとはしていない。そんな努力はしないばかりか、自分の意に沿わない時は避けて引っ込んで居ると言う所があり、そこが彼の欠点と言ふか、誤解された点では無かろうかと思う。

医師親交会にも三年前にやっと入会し前回「波久鳥」十号に「インド雑感」を投稿して貰い、これから毎回投稿して頂く心積もりであった。

こうして私が下手な文章を書く羽目になろうとは思っていないことであつた。

思えば昭和三十二年から三十三年間、（後で聞いた所によると私の学生時代に良く通つた質屋の二階に高田先生夫妻が間借りして居たと言うのも奇遇である）私の人生の半分以上の長い付き合いの中で先生から教えられたことは非常に多くのもがあるが、到底、私の及ばないものを先生が持つていたと言ふことも心から感じて居るこの頃である。

西ヨーロッパ

飛び歩る記

—— 絵画鑑賞を中心に ——

藤 兼 和 男

世界に所謂、十大美術館と言われるものがある。そのうちニューヨークのメトロポリタン美術館と、レニングラードのエルミタージュ美術館を除き、他は西ヨーロッパにある。それは、

ルーヴル美術館（パリ）

ナショナル・ギャラリー（ロンドン）

アムステルダム国立美術館（オランダ）

美術史博物館（ウイーン）

アルテ・ピナコテーク（ミュンヘン）

ヴァティカン美術館（ローマ）

ウフィツィ美術館（フィレンツェ）

プラド美術館（マドリッド）

であり、最近（一九八六年）印象派美術館の殆どの作品と、ルーヴル美術館所蔵の一部を移設したオルセー美術館が、これに加わり、十一大美術館となった。

夫々の美術館は、絵画及び彫像等、数に於て数千とも数万

とも云われている。

各美術館には其の主題になるコレクションに時代性と地域性がある。従って、それらの鑑賞には予め基本的な絵画史を知っておく必要がある、これには曾て放映されたNHKのルーヴル美術館、民放のルネッサンス物語、又、最近のNHKのエルミタージュ美術館、オルセー美術館等が最適である。

人は、二万年も前から絵を描いてきたと云われている。ラスコーの洞窟画、エジプトの貴族の墓、ポンペイの遺跡などはそれを裏付けている。ポンペイの遺跡を見る機会があったが、火山灰に覆われて保護されていたせいも現在も鮮やかな色彩が残っている。

それはさておき、美術史の上からは絵画も建築と同様イタルネッサンス以前は、

ビサンチン（四世紀―十三世紀）

ロマネスク（十世紀―十二世紀）

ゴシック（十三世紀―十五世紀）

と、分類されている。

ゴシック形式とは、高く天上に聳えるという事を意味し、この時代には数々の教会が建設され、その建造物とそれに付随した調度品等が、主な美術品である。その代表がパリのノートルダム寺院であり四世紀より何度にもわたって改築が行われ、現在のゴシック様式になったのは十三世紀で、南側からの全景にはロマネスク様式も残っている。

しかし、絵画に於てこれら中世の作品は、殆ど宗教画であり、一つの戒律の下にあった。十四世紀の初め、イタリア北部に、チマブーエ、ジョット等が新形式による聖母子像を描

いているが、十五世紀の前半に遠近法（影による立体感を表す画法）がマサッチョ等により発明されてきた。この時期から所謂、ルネッサンスと云われる新しい時代に入る。

即ち、神中心であった時代から人間自身の価値を見直し、古代ギリシャ、ローマ時代をも再認識し、絵画に於てもいろいろな手法が用ひられる様になった。

更に、十五世紀後半にはギリシャ時代の古典に基づく多くの作品を発表したボッティチェリが現れ盛期ルネッサンスとなる。そして更に、レオナルド、ミケランジェロ、そしてラハアエロと続くルネッサンス三大巨人の登場となる。

（1）ウフィツィ美術館

イタルネッサンス発祥の地フィレンツェに在る。ここには先に述べた前期ルネッサンスのチマブーエ、ジョット、ヴェロッキオの作品群にまじって、レオナルドの初期の作品『受胎告知』がさりげなく展示してある。又、ラハアエロの『ひわの聖母』某くすりメーカーの広告によく使われているボッティチェリの『ヴィーナスの誕生』等が続いている。その他の時代の作品も数多くあるが、先に述べた様な絵が主題である。見終わって外に出ると市会宮殿の横に、ミケランジェロのダビデの像（此処にあるのはイミテーションで本物はアカデミア美術館内にある）が建っている。又、いろいろな建物にこれらの芸術家のスポンサーであったメジチ家の紋章（六個の丸葉を意味する）が見られる。

（2）ヴァティカン美術館

ここは、ローマのサンピエトロ聖堂の隣に位置している。入口の大広間からラセン階段で二階に上がる。突き当りが絵

画館である。中世ビサンティンから近代に至る多くの作品、及び、彫像が収められている。しかし、何と言ってもこの主題はラハアエロとミケランジェロによって描かれたフレスコ画である。ラハアエロの署名の間の正面には、ギリシャ文化はなやかなりし頃の人文、及び、自然科学者、哲学者等を描いた有名な『アテネの学堂』が遠近法を用ひて描かれている。

即ち、その中央にはプラトンとアリストテレスを配し、左右にはソクラテス、ピタゴラス、ユークリット等々数十名が、レオナルド、ミケランジェロ、ブラマンテ等をモデルにして描かれている。ラハアエロ自身の自画像も片隅にある。

この絵は、当時、法王ユリウス二世の要請によってラハアエロが描いたものであるが、その頃マルチン・ルーテルによって宗教改革が叫ばれ、ローマ教会に対してその波が押し寄せてきた。ユリウス二世は、「アテネに代表される学術と、キリスト教が必ずしも異質的なものでなく調和出来るものである」と主張した為である。

その部屋の対面には、『聖体の論議』が描かれ、次の間には『詩人の山』『聖ペテロの解放』『神殿から撃退されるヘリオドロ』等が続いている。廊下の突き当りには有名な『キリストの変容』が展示されている。その他、旧約聖書物語が廊下の天井画として描かれている。これらを見終わって下にもどつてくるとシステイナ大聖堂に入る。その壁面及び天井は、ミケランジェロの大作『最期の審判』である。下より、地獄、現世、天上界と続き、その中心には、筋骨隆々としたキリストが、善人と悪人を選別している壮絶なるフレスコ画

である。(ちなみに、レオナルドの有名な『最後の晚餐』はミラノのサンタ・マリア・テレ・グラツィエ聖堂にあるが、現在修復中である。又、ラハアエロの『アテネの学堂』の下絵は同じミラノのアンブロジーオ絵画館にあるが、私は未だ見ていない)。

これだけ見ると非常に疲れる。出口近くにレストランがある。セルフサーヴィスであるがこのアイスクリームは素晴らしく美味である。おそらく尼さんの手作りででもあろうか?ローマの休日に真似てスペイン広場でも食べてみたが、それ程でもなかった。

ローマで忘れてならないのは、サンピエトロ寺院にあるミケランジェロの大理石の『ピエタ』である。人類の造った最高の傑作ではあるまいか。キリストの遺体をかかえた哀愁に満ちたマリアの像は、一目見たら忘れられない。残念なことに今年の春ローマに旅行した某氏の話によれば、観光客にいたずらされたので、ガラスのケースに入れられたとのことである。誠に嘆かわしいことである。

ここで再び絵画史にもどることにする。イタリアルネツサンス初期の頃、北方では未だゴシックの時代であった。しかし、フランドル地方(ベルギー)を中心としてファン・アイク等フランドル絵画が発展し、十六世紀に入るとドイツルネッサンス画家として、デューラー、クラナハ、ホルバイン等、著名な画家の登場となる。これらを北方ルネッサンスと称する。

更に、十七世紀に入りバロック絵画の時代となる。バロックとは、細かい装飾的技法を重んずるという様式である。そ

の代表は、ルーベンス（ベルギー）、ラ・トゥール（フランス）、レンブラント（オランダ）、ベラスケス（スペイン）等である。特に、ルーベンス、レンブラントは、光と影の画家として有名である。又、ラ・トゥールの『聖大工ヨハネ』（ルーヴル美術館所蔵）の中に描かれた幼き子（キリスト）が手を添えてかざすローソクの光の表現は見事である。

（3）美術史博物館（ウィーン）

（4）アルテ・ピナコテーク（ミュンヘン）

（5）ナショナル・ギャラリー（ロンドン）

これらの美術館は、いずれも堂々とした建物で各時代の絵画を取り揃えている。

美術史博物館は、名門ハプスブルク家のコレクションを中心としたものであり、アルテ・ピナコテークは近世絵画を集めたノイエ・ピナコテークと対をなしている。ここで印象が強かったのは、バロックの次の時代、ロココ画家、ブーシェの描いた、彼のパトロンの次女であるボンパドール夫人像であった。ナショナル・ギャラリーは、トラハアルガー広場のネルソン提督像の前に位置している。ルーヴル、プラド、エルミタージュ等ヨーロッパの美術館の殆どが、王室コレクションを核として発足している。しかし、イギリス王室は絵画の収集にはあまり熱をいれなかった。十九世紀半ばに、未だ美術品の購入に比較的容易だった時代に、チャールズ・イーストレーク卿によって大量に集められた。イタリアルネッサンスの逸品を中心に、数こそ少ないが、質的には三大美術館に入ると言われている。ここでは、専ら王家の肖像画で知られるベラスケスの『鏡の前のヴィーナス』が目をひく。この絵に

付いては、『名画狩り』（トマス・ホーヴィング著）という文春文庫本がある。ストーリーは、この『鏡の前のヴィーナス』と対をなすベラスケスの幻の名画、『侯爵令嬢』が売りに出されて、そのオークションをめぐる世界の有名美術館のコレクターが、権謀術数をくりひろげるという内容である。著者は、元メトロポリタン美術館長であるのでストーリーに真実性があり非常に面白い。

バロックに続く絵画は、フランス革命前期ブルボン王朝全盛期でありロココの時代であった。ロココとは、典雅な曲線の美である。ワトー、ブーシェ、フラゴナール、ルブラン夫人が有名である。

フランス革命を境にして、絵画のメッカはパリになった。そこに新古典主義、少しおくれてロマン主義の二大潮流が画壇を支配することになる。

新古典主義は、ダビッド（フランス）によってはじめられ、グロ、アンゲルと続く。新古典主義とは、デカルト以来の不变的な理性に対する信仰である。ダビッドは、美術家は哲学者であらねばならないと断言している。

ロマン主義は、ジュリコー（フランス）、ゴヤ（スペイン）、ドラクロワ（フランス）によって確立された。ロマン主義とは、ピクトル・ユーゴーによれば、遅れてきたフランス革命であり、ボード・レールは、新しい感受性の発見と定義している。又、パリ郊外のフォンテーヌブロー地方を中心にして活躍した、ルソー、ミレー、コロー等はバルビゾン派として一派を成している。

（6）プラド美術館

マドリードの中心地であり、建築はスペイン古典主義の代表ファン・ベリヤーヌエバーの傑作であり、入口中央にはベラスケスの坐像が置かれてある。この所蔵作品は、六千点を越えると云ひ、王室コレクションが中心となっている。この主要な作品としては、ベラスケスの『宮廷の侍女たち』ギリシヤ人画家エル・グレコの一連の宗教画、スペインのラハアエロといわれたムリーリョの『無垢受胎』等である。

近代絵画の先駆者と云われたゴヤの、有名な、『裸のマハ』『着衣のマハ』及び『マドリード一八〇八年五月三日』などもある。アメリカより返還されたピカソの『ゲルニカ』は別館に展示されている。

(7) ルーヴル美術館

セーヌの河畔にある世界第一級の美術館である。この建物は、フランソワ一世によって建築された。昨年、フランス革命二〇〇年を記念して、入口にガラスのピラミッドが建造された。ビサンティン時代より印象派以前の各時代の著名な画家の作品が網羅されており、レオナルドの『モナリザ』をはじめ、ラハアエロ、ルーベンス、レンブラント、ワトー、次いで、ナポレオンの宮廷画家となったダビットの『ナポレオン一世の戴冠式』、アングルの『オダリस्क』、ドラクロワの『民衆を率いる自由の女神』を始めとする一連の作品が、所狭しと並んでいる。此の美術館を訪れるだけで、印象派以前の絵画史に登場する有名画家のすべての作品を観賞出来る。と云っても過言ではない。

一九世紀の前半は、新古典主義のアングロロマン主義のドラクロワによって絵画史が支配された。

一八五五年のパリ万国博覧会は、その二大巨匠に特別展示室が与えられその画業を称へたが、一方で、十四の作品を送りつけたがその大部分が審査員達によって拒否されたので、会場のすじ向かい側の建物を借りて自ら個展を開き、万国博と同じ入場料（一フラン）を徴集した画家がいる。その人の名が、後に印象派グループの結集に決定的な影響を与えたクールベである。しかし、ここを訪れる人は少なく、展覧会としては失敗であつた。彼は、自ら写真主義者と名乗り『オルナン』の埋葬』等が有名である。

更に、一八七四年のパリのキャピュシーヌ大通三五番地にあつたナダール写真館の二階で一群の若者達が展覧会を開いた。この時、参加したのはモネ、シスレー、ピサロ、ドガ、ルノアール、セザンヌを含む三十名の画家たちで、展示された作品の数は一六五点であつた。しかし、開会十日後の四月二十五日、批評家ルロアによって酷評された。この批評の題名が『印象派の展覧会』という見出しであり、その意味ではルロアが印象主義を絵画史に定着させた功労者とも云える。又、別な説によれば、印象と云う言葉はこの時出品されたモネの絵『印象・日の出』（パリ・マルモンタン美術館）から出たとも云われている。現在では、これより少し早く登場した、所謂、浮世絵よりのイマジネーションを取り入れたと言われる『笛吹き少年』や、当時非難を受けた『草上の昼食』などの作家マネ、及び、印象派旗上げにおくられて登場した、ゴッホ、ゴーギャンなどを含め印象主義作家と云われている。

(8) オルセー美術館

ここは、セーヌ川を隔てて、ルーヴル美術館の向かいにあ

る。一九八六年十二月に開館された。入口の右側に、アング
ル（泉・ほか）、ドラクロア（ライオン狩り・ほか）次いで、
左側にバルビゾン派の巨匠ミレーの『落ち穂拾い』『晩鐘』
が並び、クールベ、コローと続く。最上階にマネ、モネ、ル
ノアール、ゴッホ、ロートレック、ゴーギャン等印象派を代
表する画家の作品群の展示室がある。

日本人に最も親しみ深いルノアールの作品で、最近、高額
な落札で有名になった『ムーラン・ド・ラ・ギャレット』も
ここにある。

有名な絵が二枚あるという事は、よくある。一つの主題の
ものを同時に二枚描いた例は、いくつもある。グロ作『アル
コル河のナポレオン』は、ルーヴル美術館とエルミタージュ
美術館にある。又、ダビットの『ナポレオン一世の戴冠式』
はルーヴル美術館とベルサイユ宮殿にある。山梨県立美術館
で買い入れた、ミレーの『種まく人』は、ボストン美術館に
もある。『落ち穂拾い』も大小それぞれ数点ある。パリ郊外
フォンテーヌブローの近くにミレーの工房が現存している。
小さい部屋であるが『落ち穂拾い』の下絵のデッサンなどが
展示してある。

ついで、有名なモネの水蓮の大作は、ルーヴル美術館より
歩いて十分ぐらいのオランジェリー美術館にある。一室が連
続的な水蓮の絵を円形に展示している。一見に値する。

二十世紀にはいると、アール・ヌーボー（クリムト等）、
キュービズム（レジェ等）、フォービズム（マチス等）、更
に、エコール・ド・パリ（モジリアーニ、ユトリロ等）、ピ
カソに代表されるシュールレアリスム、と続いてきた。正に、

多元的な時代となった。しかし、芸術の根源は観念や知識で
なく、感覚や愛情であると訴えたピカソの有名な言葉、「み
んな、芸術となると理解したがる。それならなぜ小鳥の歌を
理解しようとしなのだろう。」と嘆かせた様に、所詮、そ
れらの絵を観する各々個人の感受性が問題なのである。

ここで私の独断と偏見となる。

音楽においても、自分の好きな曲と、聞きたくない曲があ
る様に、絵画においても数多く見ていくうちに何度見ても感
心する絵、又は、心に訴える絵と、一度見ればもう沢山とい
う絵があった。私は、主義・派を越えて何回も見たいと思う
絵は、ルネッサンスでは、ラハアエロであり、ダビット、グ
ロ、アングルに代表される新古典主義の一連の作品と、ロマ
ン主義のドラクロワのルーヴル美術館に展示されている数点、
印象派のモネとルノアールである。未だ見えていない作品では、
レンブラントの『夜警』である。

「ナポリをみて死ね」という言葉がある。そのくらいナポ
リは美しいということであろうが、ナポリを見たがたいした
ことはない。グラバー邸より見た長崎とそれ程違いはない。
ナポリを見ていちいち死んでいたらかなわない。しかし、ル
ーヴルを、オルセーを、ヴァティカン美術館を見るまで死ぬ
なというのが、今の感想であるし、一度見たら又、見たくな
るというのも実感である。

私は数回訪れてみたが、その度に感動を引き起こしてくれ
る。ルーヴル、オルセーは訪れた人を決して裏切らない。

音楽の散歩道

聴くくすりパートⅡ

安 斎 哲 郎

某日A先生と杯を交しながらの会話の途中、A先生いきなり「ドジョッコフナッコってえのはクラシックなんだねえ、俺はじめて知ったよ」とおっしゃる。何ごとかと聞いてみると、某音楽ソフト社の「音楽療法シリーズ」のCDの中にドジョッコフナッコのメロディをオーケストラで演奏したものがあるのだと言う。A先生は別に解説を読んだわけではなく、聴くともなしにそのCDシリーズを片端から聴いているうちに、ドジョッコフナッコが出てきたので、多分これまで日本の童謡と信じて疑わなかったこの歌が、実はクラシックの名曲のメロディに日本語の歌詞を付けたものだ信じ込まれたらしい。僕はそのCDシリーズの目録を見たわけではないが、僕の知る限りドジョッコフナッコはあくまでもドジョッコフナッコであって、東北某地方のわらべ歌をもとに中田喜直か誰かが童謡に仕立てたものと信じていたし、今でもそう信じて疑わないのだが、そう言われてみると「歩く音楽辞典」を自認する僕としていささか心配でもある。多分真相は日本人の誰にでも親しみのあるメロディをクラシック音楽に仕立て

てオーケストラ演奏を試みたものだろうと思う。このテの演奏がかなり流行っていて、ヴィヴァルディの「四季」をもじって、「さくらさくら」や「おぼろ月夜」などのメロディをイタリア・バロックの様式、スタイルで組立てた早川正昭作曲「日本の四季」などという曲が桐邦学園オーケストラの海外演奏旅行で取上げられ、ヨーロッパで大喝采を博したこともある。僕自身、七年ほど前に南部牛追い唄、大漁歌い込み、島原の子守唄、ソーラン節を組合わせた「チェロとピアノのための四つの日本民謡」という曲を作って室蘭市民音楽祭で自作自演したことがある。他人様の作ったメロディを拝借するのは創作の才が不要だから誰にでも出来るし、あとはハーモニイをつけるという数学的な作業で、おまけに自分で弾き易いように技術的な手加減が幾らでも出来るから大変楽なのである。さらに、民謡なら著作権料を支払う必要もない。五年ほど前に札幌のある弦楽合奏団を引率して台湾に演奏旅行に行った時には、これをさらにオーケストラ用に編曲し、その中に中華民国の民謡の幾つかを同じくオーケストラに編曲したものを交互に配列して「華日民謡曲集」と銘打って、現地のオーケストラとこちらのメンバーとの合同演奏を指揮して結構好評を戴いたこともある。この楽譜は手土産代りに現地のオーケストラに進呈して来た。

和歌や俳句の盗作だの、ポスターの写真の盗作、はては某文学賞受賞作品が全面盗作だったなどという話は時折聞くし、推理小説のプロットの盗用などという話もあるが、音楽の世界ではあまり盗作物語は聞かない。モーツァルトの最後の作品「レクイエム」は未完に終わったが、これは音楽が好きだが才能ゼロのある金持ちが何がしかの謝金でモーツァルトに作

曲を依頼し、完成の晩には自作として発表しようという魂胆だったという。依頼人が匿名だったため、死期の迫ったモーツァルトはテツキリ地獄の使者だと思ひ込んだという有名な逸話はオマケだが、この時代には著作権、知的所有権という思想はまだ無かったから、この金持ちには別に悪事をするという意識は無かったのである。

盗作とは別に、既成の音楽に瓜二つのメロディが偶然出来てしまうことはよくある。ベートーヴェン作曲交響曲第三番「エロイカ」といえば、別に烏賊の猥談などではなく、誰知らぬ人もいない名曲中の名曲「英雄」だが、その出だしのメロディ（したがって全篇の主題）はモーツァルト作曲、歌劇「バスチアンとバスチエンヌ」序曲の主題と完全に一致している。ドミミドーソドミソドーという単純明快なることこの上ないメロディで、昔の軍隊ラッパでも吹ける音（自然倍音ばかりだから、モ先生もベ先生もきわめて自然に口づさみつつ五線紙に書き込んだものだろう。同じ交響曲の終楽章ではベ先生自作のバレエ音楽「プロメテウスの創造物」のメロディがそっくり使われているが、これは自作だから盗作ではなく、流用と言うべきだろう。ベ先生このメロディがいたく気に入っていたらしく、他にピアノの為の大変奏曲でも同じ主題が使われていて、後世これを「英雄変奏曲」と呼んでいるが、作曲年代から言えば変奏曲の方が先である。なおベートーヴェンの『献堂式』という曲にはヘンデルの『メサイア』の中の「ハレルヤ」と瓜二つの部分がある。

音楽仲間が集って弦楽四重奏曲を弾きまわっているとき、「次は何をやるのか」「シヨシヨジにすべえ」などと言うことがある。モーツァルト作曲の数ある弦楽四重奏曲の中に、

「シヨツ、シヨツ、シヨシヨジ」と全く同じメロディで始まる曲があるのだ。同じくモーツァルト作曲のバイオリン協奏曲第五番を楽隊仲間は「コガネムシ」と呼ぶ。終楽章のトルコ風ロンドの中に「カネグラターテクラタテタ」という一ふしがあるのだ。これらは共に時代から言えばモ先生の方が先で、おまけに東洋と遠く離れたヨーロッパのことだから、全くの偶然としか言いようがなく、また日本の童謡作曲家だつて別にモーツァルトなど意識したわけではなかっただろうから、マ、人間性の自然に根ざした旋律だと解釈するのが良からう。森繁繁シの代表「知床旅情」も盗作だという論議があつたが、あのメロディは前述「英雄」の主題と同じくきわめて自然で、「ソドーミソード：」とやはり自然倍音だけの出だしで始まるが、そのあとを「ドラドソー」と続ければ「知床旅情」になり、「ドーラー」と続ければ「早春譜」になり、「ソーミー」と続ければモーツァルトの歌曲「コムリーベルマイ（来たれ五月よ）」になるのだ。いま偶然モーツァルトばかり引合いに出たが、類似的例は他の作曲家にもあるだろう。だが、斯くもモーツァルトが引合いに出されるといふことは、いかに彼のメロディが無理のない自然の旋律であるかという証左かも知れない。

さて、話が盗作やソックリサン談義になってしまった。そもそも「聴くくすり パートⅡ」と言うからには前号の続編音楽療法談義を繰り広げるつもりで原稿用紙をひろげた（いや、キーボードの前に座った）のであった。某日、ある音楽ソフト屋の回し者がロータリークラブを襲って卓話の時間を占領して宣伝したのだが、マンマと騙されて大金を投じてC Dシリーズを購入されたA先生がドジョッコフナッコを発見

されたという所からこの文章が始まったのであった。「脱線自在な僕の筆のこと故、結論は保証の限りではない」と前号にも警告したでしよう。警告と言え、音楽療法と称してレコードやCDを売り込むいい加減な商法もあるからご用心が肝要だ」とも前号に書いたでしよう。尤も、A先生がCDを購入したのは波久島前号発行より先だったかな。A先生購入のシリーズとは別の某社のシリーズのカタログが手元にあるが、「悲しみをやわらげる音楽」や「憂鬱症を吹き飛ばす音楽」はまあ音楽療法の一部と認めてやるにしても、「愛の夜を演出する音楽」「スリムな美人になるための音楽」などと言うに至ってはマユツバどころか、これが音楽療法だと誤解されては甚だ迷惑で、日本に正統な音楽療法が育ちにくい理由の一端を垣間見る思いだ。

僕は決して音楽療法の權威などではなく、漸く文献を漁り始めたばかりなのだが、その生半可な知識でも結構重宝されてこれまでアチコチで講演などして来たし、この秋も某研究会の発足十周年記念講演など依頼されている。いきおい本屋に入っても音楽療法に関するものを見つけ次第買ってしまう習性が出来上っているが、その中には買ってから後悔するようなものも甚だ多い。そもそも音楽療法の弱点の一つは理論的根拠に乏しく、経験論的、暗中摸索段階とも言える時点を出不いことなのだが、他の各種心理療法だって、理論よりも実践が先行することは多いのだからこれは止むを得まい。しかしせめてその効果の判定や予測には科学的態度は必要だと思ふのだ。非科学的マユツバ音楽療法の第一は「神がかり音楽療法」で、こんな例がある。「人はそれぞれ生まれた星によって固有の振動数を持っている。その振動数に合致する

曲を発見してそれを聴けば健康を回復する」と言うのだ。占星術思想そのものである。ピタゴラスが宇宙の第一原理は人間の耳には聴こえない天体の音楽のハーモニーだと言ったということだが、これは三千年前の哲学ではあっても二十一世紀の科学ではない。マユツバ音楽療法の第一は一見科学的に見えるが実は我田引水的な理論を展開するもの。たとえば、「乳牛でさえ畜舎に音楽を流せば乳の採取量が増加するのだから、牛にはモーツアルトの音楽がわかるのだ。まして人間でありながらモーツアルトが好きでない者はカタワだ」などという暴論がある。たしかに畜舎にBGM（バックグラウンド・ミュージック、つまり環境音楽）としてモーツアルトの音楽を流した時とそれ以前とを比較して乳量が増加したのは本場で、そこまでは科学的実験結果だし、餌や水などの条件も一定にしてあるのだと思うが、牛にはモーツアルトの音楽がわかるという証拠にはならない。モーツアルトとロックを比較したかも知れないが、音量の違い、リズムとメロディックという物理的な音の配列条件の違い、その他クリアしなければならぬ課題は沢山ある筈だ。音楽美というきわめて人間的な文化価値が、前頭葉の未発達な乳牛にどれほど理解や鑑賞ができるかは、知るよしもないのであって、僕がひそかに思うにはこれは単なるマスキング効果であろう。拘禁状態にある牛にとって、畜舎の扉開閉音その他もろもろの内外の雑音はストレス因となっているであろうことは想像に難くないから、適度の環境音楽によってそれを遮蔽するだけで牛の情動鎮静作用があると考える方が自然であって、音楽的価値とは無関係だ。

白ネズミの迷路学習実験で環境音楽としてモーツアルトを

流した場合と白色雑音とを比較すると、前者の方が学習成績が向上した、という実験報告もある。ところがデータをよく見ると、モーツァルトと対照（無音）との間には統計的な有意差はなくて、「白色雑音が学習成績を低下させる」というのがこの実験の唯一の結論である。報告者はモ先生鼻肩だからついマウスでさえモーツァルトがわかると思い込んだのだ。

「それでは貴公が前号にバロック音楽が胎教に良いと書いたのも怪しいことになるぞ」という声が聞こえるようだ。なる程、胎児にバロックかロックかなぞ解る筈はない。だが、胎児は母親の情動というフィルターを通して胎教の影響を受けているに違いない。多分文化的に進化した人間にのみ音楽があるのであって、われわれは小鳥の声を美しいと思って聴くが、小鳥にとっては縄張り宣言やセックスアピール以外の意味は無いのではないか。学者ぶって硬い表現をすれば、生物学的進化と文化的進化とは同じ過程の部分である。従ってわれわれが音楽と呼ぶ人間の文化の部分は文化的基礎とともに生物学的基礎をもっていることになる。これを敷衍すれば、人間の神経組織は単なる動物的順応を超えて美的構成体を生み、その形成からは離脱できない。かくして「美的体験は環境への適応や順応を助成する最善の工夫の一つになり得るし、それ無しでは人間は不完全だということである。人間の健康と幸福にとって必要なことは『人間的である』ということであり、音楽は人間性のエッセンスなのである」という大原理が成り立つ。断っておくが、これは僕の我田引水的、飛躍的議論ではなく、ガストン先生という教育哲学者の高邁なる説を引用したまでのこと。

エセ科学的音楽療法理論の一つに α 波説というのがある。

脳波を取りながら音楽を聴かせて、 α 波が誘導される音楽が「健康に良い」というのだ。だがどうも変だなあ。僕ら病院でシヨツチュウ脳波検査をしているが、サルのグルーミングよろしく頭髪を分けて電極糊を塗りつけ、（それも前夜洗髪させた上整髪料の使用を禁じてある）そこそ耳たぶに合計十本に余ろうかという電線をつけられて、恐ろしげな器械の隣りの鳥籠みたいな暗い狭い部屋に一人で入れられ、覗き窓から監視されるといふストレスフルな条件の中で脳波検査をしても、 α 波が得られるのは当り前。 α 波が素直に出てくれない脳が異常なんだと教えられた。最近のレコード屋には「 α 波ミュージックコーナー」なるものがあつて、このテのソフトが沢山並べられている。僕も眉に唾をつつつCDを一枚購入したが、僕の嫌いな電子楽器とりズムマシンによる単調にして思わせぶりの音の洪水で、逆にイライラが募るばかりで、どうも α 波説には論理の飛躍があるように思える。その他にf分の1説なるものもあるが、いずれもドグマの域を出ないようだ。ゲシュタルト心理学でも最近の認知心理学でもあるいは人工頭脳の研究でも音楽認知の本態はまだ説明できていないようだから、ドグマを避けたいなら早急に理論展開を急ぐべきではなからう。そもそも先述のごとく数多ある心理療法はいずれも理論より経験が先行して、試行錯誤を経て定着するという経過を取るのがむしろ当り前なのだ。

結局音楽療法はヒトの情動と感情に働きかけるもので、單純にクスリに代りになるシロモノではないから、個人の嗜好を無視して画一的な処方押しつけるべきものではないのだ。その点医学的心理学をもまた音楽をもよく識る者が患者個人ごとに曲を選択し、効果をみながらフィードバックを重ねて

野に吹く風のごとく

——万葉東歌四行詩——

加藤 治 良

治療を進行させるべきもので、単なるBGMすなわちマス対象の環境音楽利用とは基本的に異なるのだ。しかし一方、人の音楽嗜好はその人の人生観の縮図とも言えるから、漸進的に音楽嗜好を改善させることが患者の人生観、生きがいを書きかえるという心身医学の終局目標にも適うことになる。

医者であつて多少は音楽もわかるといっただけでは容易には取りつけない領域であるに違いない。

一方、医者ではなくて医学を目の敵にしている自称音楽療法師家の一人が「音楽療法入門」という本を出している。老眼の僕はうっかり音楽を音楽と読み間違えて買ってしまったのだが、要は「医者の薬は百害あつて一利なし。薬は全廃して音楽で病気を直そう。」という趣旨である。なるほど老人性痴呆と思われる患者の中には鎮静剤・精神安定剤の使い過ぎによる仮性痴呆もたまにはあるから全面的に嘘とは言えないが、でもこれを以てすべてを律するのは暴論だ。医師の一人として断固論破したい。

そんなことで、折角音楽療法を普及させようと努力している人達がいる一方、足を引張つて誤解を助長する輩も少なくないというのが現状らしい。それも音楽ソフト商売とペーパーバック出版業とが中に立っているからコトは余計厄介になる。芸術と医療と経済市場原理との三つ巴の暗闘という様相である。日本に本当の意味の音楽療法が普及するのはまだ先のことらしい。

「平城京遷都の前後、飛鳥・白鳳・天平の百数十年にわたる古代日本の和歌集。天皇、宮廷人から農民、遊女、乞食までの長歌短歌四五〇〇首、二十巻の集大成。いわゆる万葉仮名（漢字）で書かれている。額田王、柿本人麻呂、山部赤人、山上憶良、大伴旅人、大伴家持らが代表歌人。編纂の中心は家持といわれ、八世紀末の成立。平安時代中期の『桂本』が最古の写本。歌心は素朴、世々愛好者が多い」

『万葉集』はと聞かれたら、こう答えていいだろうが、ここ数年、万葉学は大きくゆさぶられているようだ。

これまで、どうにも詠めなかった、あるいは意味不明とされていた歌が、ハングル（古代朝鮮語）でなら読み解くことができるという明快な指摘——が発表されつゝあるからで、このことは大和朝廷の任那国植民地政府説、さらには日本語のハングル母語説など興味深い日本列島の古代史ともからんでくる。

それはさておき、万葉の魅力といわれる素朴、おおらか、は巻十四「東歌」の世界にこそ息づいている。

都人には優雅技巧への心寄せから、類型歌が目立つようになり、ことに後期は古今風への近づきも生まれるから、退屈な歌も少くない。まあ、好みという問題はあるだろうが。

「東歌」二三〇首の作者たちはすべて名もない農民か地方の下級役人、いふなれば土臭い雑草の歌である。信濃・駿河から東、陸奥までが舞台となる。背景に民謡・作業歌・伝承のたぐいが当然考えられるわけで、男女間の相聞も赤裸にして率直、時代を越えて生き々と愛すべきいのちを描く。

「国なまり」が露骨さを薄め、詩を生む。これは千年の昔も今もかわらない。音頭にも甚句にも残っているし、ヨイトマケの歌にしても、つい此の間まで町のあちこちから聞こえてきたような気がするのである。

いくつかを四行詩に歌い変えてみた。酒興、座興のつもりだから読み流していただきたい。短歌の読み下しは小学館・日本古典文学全集を参考とした。

○ 筑波嶺に 雪かも降らる 否をかも かなしき児ろが
布乾さるかも

* 雪降ると 見たれば
いやいや あれは白い布
筑波嶺に
娘らが乾す 白い布

○ 足柄の 遠面此面に さす畏の かなる間静み
児ろ我紐解く

* 音は止んだぞ 畏掛けの
山を下りたぞ 皆の衆
ふたりきり
さあ ふたりきり

○ 多摩川に 晒す手作り さらさらに なにその児の
ここだ愛しき

* 多摩川の水は さらさら
手作りの布は さらさら
あの児いとしや さらさら
触れてみたやな さらさら

○ 武蔵野の 背ろに逢はなふよ
をぐきが雉 立ち別れ 去にし夕より

* あの夜から
あなたは来ない
雉も鳴かない
野をわたる 風の音だけ

○ 馬来田の 嶺ろの笹葉の 霜露の 濡れて我来なば
汝は恋ふばそも

* たつぷりと
濡れて来たぞや 笹露に
あだにすまいぞ
あだにすまいぞ

○ 足の音せず 行かん駒もが 葛飾の 真間の継ぎ橋
止まず通はむ

* 馬のひづめに
藁沓はかせ
夜ごと あの児に
通いたや

○ 伊香保嶺に 雷な鳴りそね 我が上には 故はなけども
児らによりてそ

* あの児がな

おびえるのだけ 死ぬるほど

納めてくれやい

雷どの 後生ぞや

○ 鈴が音の 駄家の 提井の 水を飲へな 妹が直手よ

* 聞こえるぞ 鈴の音が

早馬宿の 鈴の音が

うまいぞや 甘いぞや

あの児が汲んでくれる水

○ この川に 朝菜洗ふ児 汝も我も よちそを持てる
いで子賜りに

* おれの倅と おまえの娘
よう似合うと思うがな

仲良うませんかや

……わかるかや

○ 稻搗けば かかる我が手を 今夜もか 殿の若子が
取りて嘆かむ

* いたわしやのう

荒れたやの

言うてくれたわ 若殿が

撫でてくれたわ 若殿が

○ 人妻と あぜかそを言はむ 然らばか 隣の衣を
借りて着なはも

* 人の妻なら なぜ悪い

同じことだわ そうじやろが

借着とな

隣家からの借着とな

○ 赤見山 草刈り除け 合はすがへ 争ふ妹し

あやに愛しも

* 草刈り払うて

柔床に仕上げてな

さあ 言うたら いやじやとぬかす

ま、それもかわいやの

○ 夕されば み山を去らぬ 布雲の あぜか絶えむと
言ひし児ろはも

* いつまでも いつまでも

お山離れぬ 夕の雲と

ようも 言うたわ

うそつき児ろめ

○ 鳥とふ 大をそ鳥の まさにでも 来まさぬ君を
ころくとそ鳴く

* 来るはずもない あの人は

それなのに

とんなな鳥が鳴いている

ころく ころく と鳴いている

○ 昨夜こそは 兎ろとき寝しか 雲の上ゆ 鳴き行く鶴の
ま遠く思ほゆ

* つい昨日 逢ったばかりが

顔見たや

鶴の遠鳴き

千里の思い

○ くへ越しに 麦食む子馬のはつはつに 相見し兎らし
あやに愛しも

* そと触れた

あの兎ろは

柵越しの子馬

つらやな いとしやな

○ 崩崖の上に 駒をつなぎて 危ほかど 人妻兎ろを
息に我がする

* 崖の細道 はらら

馬の背 はらら

死ぬる思いぞ

人妻なれば

○ 青柳の 萌らる川門に 汝を待つと 清水は汲まず
立ち処平すも

* 青柳の芽ぶく 川辺に

あの兎ろは

水汲むふりよ

ほれ 行きつ戻りつ

○ 妹が寝る 床のあたりに 岩ぐくる 水にもがもよ
入りて寝まくも

* 水になりたや

ひそと 流れて

ひそと 染みたや

妹の素肌に

○ 恋しければ 来ませ我が背子 垣内柳 末摘み枯らし
我立ち待たむ

* それほど思うてくれるなら

柳摘みく 待つてます

末の枝葉が枯れるまで

柳摘みく 待つてます

最後に、私の一番好きな歌を。遠い遠い野面の彼方から、
万葉乙女の情感が鮮やかに伝わって来るようだ。一音一音の
凜とした響きがいい。爽やかな歌である。

○ 都武賀野に 鈴の音聞こゆ

可牟思太の 殿の仲郎し 鳥狩りすらしも
つむがのに すずのおときこゆ

かむしだの とののなかしし とがりすらしも

* 風に乗せられて・・・

あれは 鷹の尾羽根につけた鈴

あの音は お館の次郎君の鷹の鈴

都武賀野を駆ける 次郎君の狩の鈴

座 談 会 夏の夜のおしゃべり

—— カラオケを中心として ——

熊谷弘夫・黒光康夫・鈴木久雄・曾根清孝・竹内隆一

編集委員 (大久保・加藤・児玉・斎藤・三村・村井・沢山)

事務局 (高橋・小杉)

平成2年7月26日 於：中島町「白樺」



黒 光



鈴 木



竹 内



曾 根



熊 谷

加藤 「カラオケを中心として」というのが今夜のテーマなんですが、編集会議で次々にあげられたのが先生方のお名前でした。竹内先生もいらつしやいます。

曾根 先生はもとよりでございますが、はやり歌、ナツメロを話題にしながら大正昭和の歌謡風俗史みたいなものが楽しく流れてくれるのではないか、という趣向でございます。気軽なおしゃべりでよろしく願います。まあ、なにはともあれ一口しめらしてから。

(ほう梅酒……暑気払いにいい……)

こないだ函館旅行に行きましてね、夜の宴会のあと下のサロンに十二、三人集まったんです。そこで修弥先生の歌——すばらしくうまいね。他を圧してました。黒光 うん、うまい。うまくなつたんだあの人。場慣れしたからね。

熊谷 いま、カラオケ置いてないと客が集まらんらしくて、どこのバーにもあるでしょう。置いてない飲み屋を選んで行くんだけど、なかなか。

大久保 そんな話を伺っていたんで先生にも是非入って頂きたかつたんです。

——曾根先生はカラオケ何時から？

曾根 昭和五十四、五年かな。ハシリだ

つたけど今はもう歌わない。なにかの場合一曲だけ。最盛期には二十曲歌ったんだ、連続で。もう来ないでくれって言われた、あつはは。(笑)

——最初の頃はどんな歌を？

曾根 はい、ちゃんと書いてきました。

初期は四、五曲だったけど最後は五十五曲ぐらい。はい、ご覧あそばせ。

竹内 レパートリーね。すごいね！

黒光 ぼくが聞いた頃はね、手帳持っていて二十四曲ぐらいって言ってたもの。

曾根 誰が？

黒光 先生さ。歌い出したら止まらなかつたもんね。

曾根 覚えてない。(笑)

まずは演歌から

竹内 演歌って言い出したのは何時頃からなの？もとは流行歌“はやり歌”でしたでしょう。

加藤 演歌と言う言葉は前からあつたんでしょう。われわれ子供の頃は流行歌ですよね。「はやり歌なんか歌うんじゃないのっ」って叱られた。今の大衆歌謡はジャンルが多いですね。ロック、カント

リー、フォーク、ポップス、ニューミュージック……とか。

黒光 演歌師の演歌なんでしょう？

加藤 「流し」のね。艶歌という文字も現れたけど。

大久保 それ先生のオハコでしょう。

竹内 源流は昔の催馬楽、今様ですね。

熊谷 クラシックがあつて民謡があつてその中間にニューミュージックやロックなどがあるんでしょう。演歌はどこに入るのかな。

竹内 ともあれ日本の人情の機微、裏町人生の哀歓をうたう歌ですね。カラオケの主流はやはり演歌、演歌調ですか？

大久保 最近はずつつてきてるんです。たとえば鈴木先生なんかが歌う歌には演歌は全くないんです。すべて新しい歌なんです。

三村 ボクはですね、カラオケは自己主張の再現だと思う。だから自分が歌って陶醉しないと……。

曾根 はい、これが俺の語るべき眼目の。俺の信条なの。後で誰か読んで。

——竹内先生は流行歌の時代ですね。

竹内 私は一番年少だし(笑)大正デモクラシーの影響を受けていたわけですか

ら昭和じゃなく大正（枯れすすき）ね、あれはまだ歌いますもね。歌いはじめは生意気盛りの中学二、三年頃。

三村 はやり歌って、ギター持って歌って歩くアレですか？

加藤 ほう、〃はやり歌〃は死語になったの？要するに大衆歌謡なんだけど品格ある人は歌わなかったの。ポリドール、テイチクからレコードが出てね、〈赤城の子守歌〉も淡谷のり子のブルースも皆はやり歌なの。

三村 古い町を訪ねるとギターの流しはまだまだですね。

曽根 浜町にも居た。大正琴の名物じいさん死んで六、七年になるかな。

竹内 新内の流しが源流ですね。三味線弾いて……。

加藤 二階からおひねりポーンと、それを扇子で受けて。

鈴木 アイ・ジョージも流し出身。

大久保 学校にいた頃、すすき野常連の先生がいますね。「うまいのがある、きつとプロになるよ」って予言していたのが北島三郎なの。（ホウー）

加藤 私の場合は、戦後間もなくは軍国歌謡、〈麦と兵隊〉〈愛馬行進曲〉など

ペーソスのあるやつ、それに戦前、戦中の流行歌を拾ってね。そのうちロシア民謡が一世を風靡したでしょう。

大久保 歌声喫茶でロシア民謡が広まったんですね。

加藤 それとNHKのど自慢出身のノンプロもずいぶん出ましたね。室蘭からも二人、もつとも当時は歌曲でも立派に歌いこなせる歌いぶりじゃないと駄目でしたよ。

大久保 いつの間にか歌曲がなくなりましたね。かわりに演歌がふえた。

加藤 昭和二十三年だったか、室蘭でものど自慢があつたんです。市立病院内科にハヤサカという先生がいましたね（曽根——ああ、知ってる、知ってる）歌曲の部に堂々と出たんです。（帰れソルレント）を歌って鐘二つ鳴らしましたよ。

曽根 俺も出たよ。映画館であつたの。

黒光 へえー信じられない。（笑）

曽根 「三つの歌」だったかな。でも鐘鳴らしたんだ。

竹内 今の人よく泣きますね、合格の鐘が鳴ると。

熊谷 紅白歌合戦なんかも時代の風潮をよく見せてますね。最近はおペラ歌手な

んかも出ますしね。

加藤 浜町のある飲み屋で悪友三人と歌いまくっていたら、お巡りが入ってきて「何時だと思ってるの、いい加減にしておさいよ」って。午前三時さ。おまけに窓開けっ放しでね。（笑）（りんご追分）〈サーカスの唄〉とか（ステンカ・ラージン）なんかね。それが三十年前なんだけど、去年ノンプロのアコージョンひきが「先生、ロシア民謡の楽譜ありませんか」って言うの。どこにしまひこんだものやら——というわけ。時代ね。

黒光 ずいぶん歌われましたもんね、ロシア民謡。

大正ロマン

鈴木 カラオケ・ボックスが出てきてますね。

大久保 あれも近頃はいろいろハイテクが使われているんで年配の人は操作できないですって。入ってはみたけどカードの使い方もわからない。だから悪の温泉といわれようと若い人じゃないと駄目なんだって。でも窓開けて二時三時まで歌われるよりボックスの方がはるかにいい

んじゃない。(笑)

黒光 だいぶ増えてきましたよね。中島町にも三か所あるんで一回行ってみようと思っではいるんだけど。

三村 あのー新宿事情ですけどカラオケ一曲六百円ですね。自分が歌うのになぜ六百円も払わなくちやいかんのか、札幌もそうですけど……ここに疑問点が残るんです。

曽根 昔は8トラだったけど今はレーザーディスクさ。あの大きい立派な機械をリースで借りてるから金取るわけ。

黒光 歌わない人は画面を見てればいいんだから、それもいいんだ。

鈴木 でも、あまり値段が高いから今はCDになってるでしょう。CDだと最初から最後まで歌の文句とあまり関係ない絵が流れているんですよ。

曽根 あるある、だからいいのさ。オレ飲みに来たんで下手な歌聞きに来たんでないって人いるからね。歌が始まるとすぐ帰ってんだ。しかしカラオケ好きな同志が集まるとまた楽しいんだ。ゴルフ仲間と似たようなもんさ。

三村 わたしがカラオケ嫌いになった理由はね(オヤ、嫌いになったの?) ええ

わたしが歌い出すと女の子がみんな踊り出すんです。わたしの歌はダンスに合うのかしら。(うん、そうだよ)だから、わざと邪魔して早いテンポのニューミュージックのガチャガチャしたのを歌うようにするんです。そうすると女の子は席を立たない、前に座ってる。(笑)ムードのあるやつを歌うと目の前で他の客と踊るでしょう。だからネ、嫌いになりました。(笑)

——鈴木先生のはどんな歌?

鈴木 私は歌も宴会も嫌いだったし指名されても逃げていたんです。ところが、子供たちがピアノ弾きながらけっこう楽しそうに歌うんですよ。さんざん楽譜のコピーをさせられて腹は立つんですが、オヤジは楽器なにも出来ない。昔やってたのは尺八でしょう。(笑)それで私も何かと思ってもピアノは駄目でしょう。エレクトーンにとついたらわけですよ、五十いくつになつて。(ホォー)先生が毎週一回見えて、次はこれやりますから覚えておいってください、それ三年くらい続けたんです。あちらの有名な曲がみなレッスンに入っているわけですよ。弾いて歌っているうち、いつとはなしに歌え

るようになったというのが、きっかけなんです。

そのころ子供が中学から高校、テレビの「歌のベストテン」に夢中でね、それを視ていたり車の中で録音テープを聴いているうち、殆ど覚えてしまったんです。でも先生が室蘭を離れ、エレクトーンも止めてしまつて最近の歌は全然知らないんです。子供とつき合つて覚えた歌ですから演歌には縁がなかったんです。

熊谷 僕は軍歌ですがね。今でも酔つ払つても海軍の軍歌なら歌えるの。この間「赤い靴コンサート」へ行つて来たんですがね、いわゆる日本名歌百選とかああいうところで歌われる歌の80%は知つてますね。小学唱歌つてのはいいね、立派だね。

鈴木 やっぱり、いい歌が多いですね。
大久保 今の子は人形劇のテーマソングは知つていても童謡は知りませんよ。

加藤 私、童謡歌手といわれた時期があったの。

曽根 うん、そうだった。

竹内 昔の話になると、ここは御国を何百里「つてあの歌、あれは物語よね。私達が軍国教育を受けた頃には厭戦的な歌

であるとしてね……あの叙情性ね。

大久保 “ああ、あの顔であの声で”なんてのは景気が悪くてね。子供心にも戦争は負けるんじゃないか、と思ったな。

兵隊を送るのにあの情けない歌。(笑)

熊谷 斎藤先生なんかはビートルズの時代だと思うんだけど。

加藤 われわれは、あのエレキギターという楽器——電気に乗った不思議な音を魅力とは思えなかったけど、おもしろい音だなあと聴いていたの。今あらためて聴いてみると、きれいだなーと思う。違和感感じないんだ。パロックのルーツだもんね。(勲章もらったしね)

グループサウンズといえば、今のゲンジボタル(笑)じゃないヒカルゲンジ、ああいうのから一匹タレントが結構出ましたね。

熊谷 一九六〇年かな、もう三十年になるけど、それ以後のニューミュージックに対する感覚は此処にいる人たちは持つてないんじゃない? まあ、斎藤、三村先生ぐらいかな。

加藤 歌じゃないけどムード音楽華やかなりし時代があったね。(煙が目にしみる)《スター・ダスト》とか、グレンミ

ラーの《真珠の首飾り》。

曽根 チケット手に入れて札幌まで聴きに行ったんだ、グレンミラーをね。ダンスがはやった頃さ。医師会でもダンス部会こそなかったけどみんな熱心に習ったよ。あの時代の人達みんな居なくなっとなあ。

加藤 あんなとき歌なんか歌ったら追い出されたらうね。(笑)

大久保 ここで曽根先生のメッセージを読みます。

○演歌は日本のファドである

○演歌には哀愁がある

○演歌には大正ロマンがある

○演歌は浪花節調である

○演歌はしんみり聴くものである

○最近はそのような味のある演歌がなくな

った

○演歌の最盛期は五年前であつた

○大声を出すことは健康に良い

○心に太陽、唇に歌

以上です。(拍手)

大久保 演歌はしんみり歌うものではないそうです。(笑)

竹内 いやあ、なかなか詩人ですね。

加藤 フランスはシャンソン、イタリア

はカンツォーネ、ポルトガルはファードそして日本は演歌ということですね。気候のせいでちよつとジメツとして裏町が好きで女を泣かせて……。

曽根 いやいや、男が女に泣かされるのも演歌なんだよ。“逃げた女房に”ってね。(笑)

加藤 FMに世界の民族音楽という番組あるんだけど、ユダヤ歌謡に惚れちゃった。例の「屋根の上のヴァイオリン弾き」のジャン・ピアースなんかは有名なんだけど、みんなオペラティックな発声で、アルトなんかも素晴らしいの。

竹内 じつは私イスラエルに行つてじかに見聞きしたんだけど、音楽にしろ絵にしろすごいですよ。ほんとうに神の選民だね、彼らは。

熊谷 演歌の楽譜をね、本格的なリードで歌うととてもいいんだなあ。僕はその方が好みだけど。

三村 私達は演歌が身に沁みますよね。心配なのは、若い人達はまた演歌を歌ってくれるだろうかということ。

曽根 歌わない!(笑)

三村 歌詞カードを見ますと、“別れ”

が演歌の原点だと思うの。

大久保 ぼくはね、日常普段のたいへんわかりやすい言葉を上手に並べかえて、メロディーつけて——あの作詞家つてのは尊敬しますね。

竹内 うん、室蘭なんかかって歌が新聞に出てたでしょう。歌詞を見てびっくりしたんだけど、十一世紀の《今様》あの『梁塵秘抄』にほんとうに似たのがあるの。はやし言葉といい、繰り返しといいちよつと変えればそっくりなんだ。現代歌謡の原点は古い昔にあるんだなあ、と感心しました。

三村 演歌の歌詞を読んでもみると、胸がジーンとくるような文句ばかりですよ。

黒光 やっぱり大正ロマンなんだ。

民謡と美空ひばり

大久保 鈴木先生、沢山先生、演歌イコール「カラオケ」じゃないでしょう。大正ロマンではない方のお話して下さい。
沢山 テレビ番組のアンケートなんです、カラオケで一番歌う曲の中に若い人では演歌が一つも入っていないんです。これは、あたりまえとは思いますが、

そうとう年配の人で特に多かったのがですね、《青春時代》なんです。（ほう）
熊谷 経済効率一点張りの高度成長時代に心のゆとりを求めるオアシス、それが青春時代だと思うんだけど。

曽根 テレビ週間雑誌にのるベストテンにも、われわれが知っている昔の演歌は一つも入ってないよ。結局、カラオケの時代は終わったんだ。

鈴木 演歌の時代でしょう、カラオケではなく。（笑）

曽根 あ、そうか。うん、そうなんだ。
加藤 いま演歌を作っている人達がいなくなったら終わりでしょう。そして名曲だけが残ってナツメロになりますよ。アメリカのオールディーズのように。

黒光 韓国のアリランやトラジ。台湾だって歌ってくれますよ、彼らの古い歌。

竹内 日本でも傀儡子（くぐつ）たち、まあジプシーですよ、彼らが《今様》はやり歌ですね、それを広め各地の民謡と溶け合って現代に生きているんですからね。

熊谷 民謡といえば、北海道は宝庫なんでしょう。

加藤 うーん、宝庫とは言えないね。

黒光 やはり東北さ。

加藤 津軽の血を引いているからだろうけど、ジョンガラ節なんか聞くとね、血が騒ぐの。昔から村々でコンクールや対抗戦があつたし、今なんかは津軽三味線の五十人大合奏もあるけど、私はリズム民謡だと思ってるの。ドラムがよく合うんじゃないかな。それから関東は上州のアレ、ほら、アレさ。西のほら、どじょう掬い……あれなんかもリズムが生命ですよね。

児玉 先生、アレ、アレって言うのをネまだら呆けて言うんだって。（笑）

黒光 津軽のは明るいよね。子供の時から耳に聞いて身体にしみ込んでるんだ。

加藤 ただ、西の土地に残っているような、まともな子守歌はないの。リズムと語りと大人の男と女。

大久保 あんな賑やかなの、子供は眠れないよ。（笑）南部は静かだけど。

三村 青森の街で飲んでたら——何年も前の話だけど、（昨日でいいよ、笑い）三味線持った流しが来ましてね。それがすばらしいの。金いくら払ってもいい、と思いました。

——黒光先生の好きな歌のジャンルは？

黒光 飲みながらでは演歌だけど、ド演歌は歌わないな。僕は小節が回らないからネ、どっちかといえばサラッとした北島三郎のものだな。

熊谷 先生の弟さんは尺八の名手だったのでしよう。だから尺八の素朴な味の影響があるんじゃない？

鈴木 そう、あれは日本のクラシックだからね。

曾根 さあ、あと五分で定刻だよ。おれ九時に寝るんだ。朝五時に起きる。さあしゃべったから帰る。(年齢なんだ)

——曾根先生のベストスリーは？

曾根 〈二人酒〉とか〈一人酒〉それに〈釧路の夜〉。ド演歌だ。うらぶれ演歌だよ。

熊谷 みんな二、三曲づつ歌ったら面白いねえ。

大久保 とにかくしゃべってください。

加藤先生、そろそろ、あれは？彼女の話出しませんか。

加藤 じゃ、美空ひばり論なんだけど、一周忌だからね。

曾根 そういえば俺、美空ひばりの歌、あんまり歌わないんだなあ。

加藤 そうでしょう、意外と少ないの。

本人がうま過ぎるんだよ。プロの物真似屋だって何人もない、コミックなものも含めてね。そもそも彼女には好きと嫌い二種類の人達がいたと思うの。私も

初期は楽しかったけど途中からずーっと横を向いていたの。おとし龔学校に行く車の中でラジオのスイッチ入れたらネあの〈川の流れるように〉が聞こえてきた。初めてだし、いい歌だなあ、コーラスになる歌だなんて聞いてたら終わって

〃ひばりさんの歌でした〃というんだ。へえーとおもった。似てる声ではあったけどまさかの気持ちが強かったもんね。

時々気にしていたら死んじやった。そして追悼番組でしょう。うまい、なんともうまい。しかもいい顔になってる。

(死相が出てましたね)完全に自分の絵を描き切ってるんだなあー。

晩年いくつかのすばらしい歌、私は彼女のために喜んでるんだ。

黒光 うまいまじいではないんだナ。なにかを越えちゃってさ、ただの演歌歌手じゃないもの。

熊谷 譜が読めないんだって。

鈴木 読める読めないは関係ない。天才的な音感の持ち主だから。

竹内 さつき斎藤先生もおっしゃってたけど、〃川の流れる〃など歌う彼女の顔には死相が現れてましたね。

加藤 裏声の使い方があれが、美空ひばりでしょう。(悲しい酒)なんかも歌う度こまかいところが違うんだ。これがプロなんだと思っただけど、彼女に歌わせたかったなあ、日本のシャンソンを。

竹内 ひとり酒場で飲む酒は、どんな酒を飲んでたのかな。(ケンピシ?)あのね、一人で飲む酒はスピリッツ、蒸溜酒なんです。ビールなんかは皆でガヤガヤ飲む酒でしょう。アブサンなんかは自殺寸前に。彼女もだいたいお酒が好きだったようだから〃川の流れる〃歌ったころは、そんな酒飲んでたんじゃない？

鈴木 彼女の歌、うたってみたいと思っただことはなかったんだけど、最近は〈愛燦々〉とか〈川の流れるように〉とか。

加藤 〈ひばりの佐渡情話〉や〈車屋さん〉も彼女でないと唄えない。

三村 ぼくは〈悲しい酒〉だなあ。

曾根 うん、あれは泣くよ。いやいや、こつちが泣くんぞ。……というわけで、お先に失礼します。あと、よろしく編集しといてね。

カラオケ

スタンダード・ナンバー

大久保 話をカラオケに戻しますけれど、小学生からカラオケやらせたらどうでしょう。というのはね、家内の親父さんが眼鏡屋でしてね、向かいがレコード屋だったんです。毎日聞いているうち歌えるようになって、レコード買ってくるようになって、つまりは音痴がなおちゃったんです。下手なピアノだ何だっていうよりいいでしょう。ヒアリングが最高の音感教育だと思うんだけど。上手下手は別ですよ。

鈴木 そう。私もそう思う。

加藤 カラオケで困るのはテンポもピッチも一定なんだよね。自分流に酔えないんだ。〃のーむさーけをー〃って気分よく伸ばせないんだ。せわしいの。だから私はいつも無伴奏。

大久保 先生は伸ばしすぎるもの。2小節も3小節も。(笑)

黒光 酔うと誰でも間延びするよ。

——村井先生、歌ったことは？

村井 いや、ない。……ヘタウマとウマヘタとあるでしょう。ヘタウマというの

は下手なんだけど物真似がうまいの。でも味がない。ウマヘタというのは歌唱力もあるんだけど、生まれて初めて指名されたみたいのに、調子落したり間延びさせたりして歌うの。个性的だし粋なカラオケだと思うの。(なるほど)

鈴木 歌い続けられる歌は結局、歌詞なんでしょうか、それともメロディーなんでしょうか。

加藤 私は歌詞だと思ってるの。細川たかしを聞いていても、何を歌ってるのか語ってるのかわからなければ半分は横向くんじゃない？

沢山 似ている曲は結構ありますね。

加藤 《雪の降る町》って歌あるでしょう。ショパンのファンタジーってピアノ曲とテーマが同じなの。中田さんは音大のピアノの先生だったし……誰かが話題にしたようでもないし、いまだに気にかかっているんだけど。

大久保 七音階の組み合わせですし作曲ってそんなところあるんじゃないですか。沖繩の歌だって、もう下がるかな、と思うと下がるでしょう。(笑)

熊谷 五音階から七音階、十二音階、不協和音なんて増えてるけどね。

児玉 こうなると安斎先生お呼びしないとね。(笑)

加藤 音楽、ことにポピュラーなものは若い人優先ですよ。その人達が老人クラブに入る頃のカラオケはどうなってるんだろう。

黒光 ナツメロに戻るんじゃない？

鈴木 演歌の古典かい？僕は演歌には戻らないと思う。残るものは残るけれどもその時代の歌が現れて来るもの。

——児玉先生の歌は？

児玉 僕は歌わない。指名されると心臓がキューっとなるの。だからマジック覚えたの。とにかく、歌はどうってことない、音楽には音痴だからね。

——デュエットは何曲ぐらいだろう？

黒光 あれはね〃声ならし〃なの。女性が先に歌うでしょう、次に男性が、半々にね。だから一曲デュエットで声をならしておいて、本格的な声出しにそなえるわけさ。

三村 ほうー、カラオケも通になると違うもんですね。(笑)

鈴木 何曲もないでしょう。(銀座の恋の物語)に……有名なのは三曲ぐらい？
大久保 銀座の前にもあったでしょう。

松尾和子とフランク永井のが。

（あつた？誰よりも君を？骨まで？）

熊谷 男性コーラスありますね。女声もあるけど、あれはいいな。まあ、おかしなのもあるけど。

黒光 うん、フランク永井のはね（東京ナイトクラブ）さ。

大久保 いやあ、さすがデュエット！

竹内 あれは、いい歌だね。

加藤 どうですか、古い新しいとり混ぜてカラオケのスタンダード・ナンバーにぜひ入れておきたい、という歌。

私は（東京ラプンデュー）。

黒光 〈津軽海峡冬景色〉これは名曲だな。（風雪ながれ歌）。

熊谷 〈マイ・ウエイ〉は入れるべきだね、外国のだけど。

三村 石原裕次郎の〈北の旅人〉彼のは演歌と若い人の歌との接点です。

加藤 そういえば〈黒い花びら〉水原弘がいた。

沢山 あれは三十年代の歌ですね。

竹内 “窓を開ければ” 淡谷のり子。

黒光 〈長良川演歌〉五木ひろし。

斎藤 歌は好きな方ですから、軍歌からニューミュージックまでなんでもですけ

ど、谷村新司……〈昴〉はいいんですけど、あまり普遍化されたので、ちよつと。そうですね……時代をすこし若くしまして、サザン・オールスターズの〈愛しのエリー〉。

沢山 僕はね、流行歌というと小学生の頃に〈丘を越えて〉や〈青い背広で〉なんかが歌われてました。（愛染かつら）みたいなのは歌うと叱られました。意味はわからないままにレコードかけて振りをつけたりして。音域からいうと僕の声で歌いやすいのは渥美二郎なんです。だから〈夢追い酒〉ですね。（そういえば似てる）ウン、それを言いたかったんだけど。（笑）

鈴木 好きな歌は〈群青〉谷村新司ね。

映画の「連合艦隊」のテーマ曲なんだけど、いい歌ですよ。でも非常にむずかしいんです。歌えないんです。歌詞も見ないとちよつと出てこない。歌いたいの（アドロの歌）、これはエレクトーンをやっているとき、ああ、いい曲だなあーと思っていたら歌詞のあるのがわかったんです。

熊谷 僕は〈故郷〉がいいですね。

竹内 〈旅愁〉もいいですね。小学唱歌

はみんないい。

三村 そうですね、チョウ・ヨン・ピルのレパートリーですね。それと〈面影〉「Gメン」のテーマ曲です。

村井 私はね、替え歌になる歌なら興味を持つんですがね。作詞家つてのはあらかじめその事を考えて作っているんで、日なのもあるんです。（笑）たとえばですね——いや今日はやめときましよう。

児玉 忘年会で歌ったら？

大久保 さっきから出ないんで変だなと思ってたんだけど〈湖畔の宿〉小学校の五年生でした。

熊谷 ほんとうに歌は人生ですね。

鈴木 その時代を思い出すものね。

今日はおもしろかったなあ——。

加藤 今回からマダム斎藤に『波久鳥』のお手伝いをして頂くことになりましたが、だいに（笑）して参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは。

大久保 あとはカラオケ実技教室ということですか。（拍手、笑い）

——終わり——

あんらく いす

第二十四回 北海道トクターズ ゴルフ大会に 参加して

遠藤 秀雄

今年の大会は七月八日、釧路市医師会の当番で釧路カントリークラブ・西コースが会場となった。組合せはハンディキヤップ別ではなく、年令別でシニア組（昭和二年以前生）九組、壮年組（昭和三十一年生）十組、青年組（昭和十年以降生）十二組が各々アウトとインに別れスタートする組合せであった。

室蘭市医師会からは原田、児玉、斎藤（成）、遠藤、木下、森川、安藤先生が参加された。折り悪しく医師親交会の函館旅行と日程が重なってしまい心配されたが、遠方にもかかわらず七名の参加があったことを考えると、この大会の意義をあらためて感ずる次第である。

七月七日昼の飛行機で児玉、木下両先生が発してコースの下見をされた由。

残りの後発組は午後の便で釧路着。我々が旅装を解いたパシフィックホテルは釧路川に面し、裏手は夜の繁華街と大変地の利を得ている。幣舞橋の袂を横切ればフィッシャーマンズワーフ、その中の「花ばんや」で先発組と合流して、ジョッキ片手に腹ごしらえ、明日の健斗を誓い合う。その後斎藤成樹先生の御世話で釧路の夜を満喫した。

大会当日はスタート時間により二班に別れてホテルを出発。原田、児玉、斎藤先生と共に、六時前に低く垂れ籠めた霧の中を鶴居へ向う。車中段々と帰りの飛行機のが心配になり、飛ばない場合はどうしたものかと頭の中はフル回転、お蔭で眠気はフツ飛んでしまった。ゴルフ場で朝食をとっているうちに霧が晴れてきて一安心。しかし釧路の夏の朝は肌寒い。セーターやベスト姿が目につく。九時近くなつて薄日がさし、微風で暑からず寒からずのゴルフ日よりとなる。霧の町釧路にふさわしくコースの芝は非常に良い。グリーンは、しっとり霧に濡れて重い所があるかと思うと速い所があつて仲々手強い。釧路の先生方が親切に解説してくださるが、我が腕思うにまかせ

ず、前半三回後半一回3パットしてしまふ。私にとって初めてのコースであつたが、距離はそれ程長く感じなかったが、適当に起伏があり面白いレイアウトになっている。プレーの進行は毎度のことながらスローペースで五時間余、ホールアウト後大急ぎで入浴していたら、役員会招集のアナウンスを受けてしまった。

この大会は昭和六十一年から北海道ドクターズゴルフ協議会という組織が主催している。この規約を見ると、事務所を北海道医師会に置き、北海道医師会員で組織され、会員間の親睦を図ることを目的として本大会を行うことになっている。北海道医師会そのものであるような、別組織であるような玉虫色であるところが、北海道医師会の苦肉の策とお考えいただきたい。昨年まで会長職にあつた小原啓三郎先生が御他界になったので、今回の役員会で北海道医師会長の吉田信先生が新会長となり、第二十五回大会は旭川で行われることが決まり、平成四年の二十六回大会は室蘭に内定した。順番からして予想はしていたが、再び各先生方に御苦勞をかけることになり、大変恐縮ではあるが是非御協力を給りたい。

遠隔地であり、帰路を急ぐ先生方に配慮して、表彰式は予定時間を早めて始められた。各自に弁当が用意され、オードブルとして花咲ガニと果物、生ビールは飲み放題と心尽くしの持て成しのうちに各組の表彰が行われ、当医師会では、壮年組で遠藤が二位、斎藤（成）先生が七位に入賞した。恒例の各組優勝者の弁を面白く拝聴し、三時前に来年旭川での再会を約し閉会となった。

心配した霧も無く、帰路も全く順調で七名の先生方各々楽しい思い出をつくられたことと思う。ここ数年の大会を振り返ってみると、年配の先生方が熱心であるのに比べ若い先生方の参加が少い傾向にある。同窓会的雰囲気と言うべきか、この事は役員会でも取りあげられたが妙案無く、仲々難かしい問題である。不参加の理由は色々あるが、都道府県単位の親睦のためのイベントは全国的にも例をみない。この大会が今後も続くことを願っている。たかがゴルフと言わず、たとえ親睦が目的であろうと、北海道医師会員が大同団結することが、これからの医師会活動に色々な意味を持つようになると考えるがどうかであろうか。

旅行親睦会交親



也 欽 瀬 広

日時 七月七～八日

宿泊 湯の川 湯元啄木亭

ゴルフ 函館K Gカントリークラブ

観光 青函トンネル 吉岡海底駅

昼食 活魚 みかど荘

例年の様に、室蘭駅を始発に保健センターを経て函館へと向う。一行二十三名。人数は少なめ、お陰でバスの中はゆつくりとテーブルを囲んで席に着く。天気には恵まれて居たが窓外の景色は既に知り盡くし、ガイドの案内もものかわ、早速

例年通り和気あいあいトリンケンが始って行く。八雲、大沼を経て夕方湯の川着。今年は少数のため個室の割当が多くゆつくり休ませて頂いた。

懇親会は例の如くでカラオケも出ない。只接待のコンパニオンは何れも若く、ピチピチのギャル、惜しむらくは洋服の制服であつたので少々ガツカリ。出来る事なら夏でもあり浴衣姿で来て欲しかった。二次会は七夕の函館へと出た先生、又はホテルのバーに繰り出し逆にコンパニオンを接待した先生も居て御苦労様でした。翌日も好天気。ホテルは由緒ある庭園の所有地に建てられた由、樹々や池の配置は見事で翌朝の散歩は心地よかった。

（註記）

ゴルフ組は早朝ゴルフ場へ、観光組は函館駅へと向う。海峡線一時間半で吉岡海底駅に到着、案内はなかなかの饒舌ガイド（JR駅員）でトンネルの中を十二分に歩かせられる。トンネル内には、竜宮水族館、トンネルジオラマ（海底駅、斜抗、立抗、本抗、横取基地等位置をランプで示す）、竜宮スーパージョン（テレビで地上の風景をリアルタイムで大画面に放映する）トンネル掘削体験コーナ

し、それに一万人もメモリアルボードが壁に嵌め込んであり、ゾーン539と称し、全長53・85km海面下2百40mに達する世界一の海底トンネルである。

昼食はうにとじコースで海の幸に満足。途中ゴルフ組を迎えて帰途に着く。例年の如く競馬トトカルチョ、ビンゴゲーム、果ては疲れて眠り込む先生、行きも帰りも元気で飲み続ける先生と様々、途中大沼、長万部に停車お土産を買い一路室蘭へと向った。

かつて十年位前の函館の史跡巡りにくらべ歩き回る距離が少なく楽な旅行でした。

註 歴史の重味を感じさせる庭園

大正より昭和にかけ函館にて活躍した経済人故松岡陸三氏が大正末期に丹精こめて作った日本庭園で約六千三百三十三平方米(千九百坪)の広さがある。多くの樹木が函館市の保存樹木に指定され、小なりと云えども森林公園さながらの庭園である。十分に歴史の重味を感じさせる。プリンスの野口社長は「由緒ある温泉池、日本庭園を大事に保存し、新しい時代のホテルと連動した形で保存したい」と言っている。

— M M M C — 紀行

歴史と浪漫の街 小樽を訪ねて

鴨井清一

霞立ち風香る、六月十日朝九時に出発したのは、三十八人の会員其の他の方々であった。

今回は繁華街駐車難の為、観光バス旅行となった次第でした。

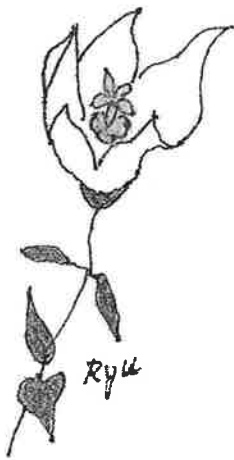
高速道路を走り、早くも十一時四十五分には会場の一心太助に到着した。

J R ツアーで有名な店と聞いていたが、和風棧敷小上り様式で、新鮮で漁れたばかりの北海の珍味、海老、鮑、毛蟹、帆立、鮪、雲丹の大盛りで、一杯飲みながら談笑するのも又格別で、時間の経つのも忘れ、最後に出された紅鮭粗の三平茶漬も乙なものであった。

市内観光は、世界各地より集められたオルゴールの会堂、次にアドリヤ海の女王と呼ばれる、水の都ベネチアの千年の伝説と歴史を有する其のガラス工芸美術

を範とした、北一ガラス三号館、ベネチヤ美術館とを訪ね、一般会場は何処も見る人買う人の波が続き、其の熱気に溢れていた。特に美術館内の、英国チャールズ皇太子とダイアナ妃が乗られた王家のゴンドラは華麗圧巻で、黒洋服赤ネクタイで、長身歌手のカンツォーネを聞きながら、運河兩岸の家々の窓から送る祝賀の拍手に迎えられ、ゴンドラに揺られながらの、新婚幸福絶頂の御二人の姿を追憶しながら館内を回ったが、其の他にも数々の技巧ガラス美術品に満ちていた。

そして次に、左に歴史的石造倉庫群を、右に小樽の過去現在未来の青銅レリーフ碑を見ながら、運河を散策して、大戦後銷沈した市勢を、歴史的建造物、浪漫的観光の遺産を以って、見事復興した市民の逞しい努力に敬意と喝采を表しつつ帰途につき、帰蘭したのは夕方七時を過ぎていた。



海の思い出

国本 鎮雄

「鯨」

昭和十八年末、軽巡洋艦阿武隈は厚岸港に入港しようと、北上していた。あと一時間もすると入港というとき、艦の前方二千米程の所に、ぼつかりと大きな鯨が浮かび上った。長さ二十米もありそうな鯨が、頭を左に尾を右にして、黒光りのする背中を、こちらに見せている。

艦長も航海長も、鯨はこちらに気付いていて、もうそろそろ避けるだろうと言った感じで眺めていたが、ちっとも鯨に動く気配がない。激しく汽笛を鳴らしたが、動かない。航海長は、あわてて「面舵一杯」の号令をかけたが間に合わなかった。ドスンと、可成りのショックで衝突してしまった。

鯨は、かわいそうに背中に傷をして血

を流しながら、艦尾の方へ去って行く。

艦には幸い何も被害は無かったが、おかしな鯨だなあ！ 病気が呆けで、よく動けない鯨だったのであろうか。少尉の国本航海士は、暫くの間、小首をかしげていた。

「紅い海」

昭和十九年早春のことであつたろう。

「前方三千米、海面の色がおかしい。一面に紅く見えます」との見張員の報告に艦橋内は一瞬緊張にざわめいた。薄曇りながら午後の蒼く美しい海面が、水平線の部分でピンク色に染まっている。

軽巡洋艦阿武隈は千島列島の最北端の守占島の防備に付くために、津軽海峡を東へ出るところであつた。対潜水艦警戒を嚴重にしながら、二十ノットの高速で、艦は間もなく、この紅い海へと進入した。どんどんと海面の赤さは深まり、直径三・四浬の血の池である。海上生活の永い艦長、航海長にも、こんな経験はないらしい。「海水を汲み取れ」。「軍医長、艦橋へ来たれ」。

少佐の軍医長が急いで海水を調べた結

果は、なんと、魚の卵によるものであつた。

ホッケの大群が、此所に産卵して行ったものらしいと分った頃には、阿武隈は、この紅い海域を抜け出して、元の美しい蒼い海を走っていた。

正月は駄目よ

上田 智夫

「月日は百代の過客にして……」と言うが、元来腰の落ち着かぬ寅さんは、又々旅に出てしまった。渡世人の寅は、三悪（高い、混雑、サービス悪い）で有名な、年末正月しか旅に出られない。因果な話だ。

○真昼のジョージ

フランクフルト経由でアテネへ。ギリシヤの案内人はジョージ（アテネの男の名前はジョージが多い）。頭の禿げ具合、年格好などで親近感をもったのか、「お友達ね」とか言つて（日本語が上手）、馴れ馴れしくよつて来て安物の栓抜きをプレゼントしたりする。

アテネと言えばヘレニズム文化の華だが、掠奪されて空っぽのアクロポリスの丘、アゴラ、何処も同じショー化した王宮の衛兵交代など、絵ハガキのとおり。日差しの中、「真昼のジョージ」につきまとわれて暑い。

○舞踏会の手帖

アテネのホテルは良かった。丁度泊まった夜が、ニューイヤ・イブ。夕食はドレスアップして地元ワインを飲んだが、広間に出てみるとタキシード、イブニングに着飾った人達の群れ。在アテネ外交官、経済人、行政関係者などの事。

一度踊ってみたかったが、パートナーおらず、残念。一般に外人はホテルで馬鹿騒ぎはしないのだが、この日は別。あまりの騒ぎに、同行の若夫婦、奥さんが隣の部屋を電話で呼び出し「シャラップ」と怒鳴ったと言うから、シャイだと言われた日本女性も、大和撫子七変化だわさ。

○エーゲ海にささぐ

寅の旅のクラスではエーゲ海はミニクルーズ、乗船ヘルメス号は超スシ詰め。座席どころか、立っている人をよけて歩く。定員数えているのか、本当に。

船内放送にはビックリ。結構なおばん

が一人で、ギリシヤ語（だろうな?）、英語、ドイツ語、日本語で観光のポイント案内。更に「ガイド〇〇さんの一行（ツアーの名前ではない）の方食堂へどうぞ、食事お済みの方は次の人が待っておりますので、お早目に席をお立ち下さい」

まいった、まいった。寿司屋のカウンターに座り込んで、寿司2つ3つで1時間も2時間もねばる観光ギャルに聞かせてやりたいよ。

観光ねえ、まあエギナ、ポロス、イドラの島の様子は、ピスタチオでもかじりながらガイドブックを読んでくれ。

○日曜は駄目よ

クルーズのあとの夕食は、ピレウスの港のロブスター屋。「日曜は駄目よ」の興奮を思い出すのだが、昔の事で細かい所を記憶していない。そこで地元映画評論家、上野誠一郎さんに手紙を出した。

日曜は駄目よ

日本上映時期 昭和三十六年

女優 メリナ・メルクーリ。ギリシヤ

政府の文化大臣にまでなった。

その他 アメリカを追われたジュール・ス・ダツシン監督がギリシヤで製作。アメリカイズムへの痛烈な風刺劇だ

が、同時にギリシヤ人気質とか、ギリシヤ女の天衣無縫がよく出ていた喜劇でした。美しいピレウスの港とか、主題曲、主演のメリクーリなど今でも強く印象に残っています。

どうだい兄弟、人様に物を聞かれたらこのくれば理路整然と答えられなけりやな。

え、何、ロブスターねえ。たしかに食べえんだが、言うじゃねえか、アメリカの馬わらじステーキは食い切れねえし、味は今いちだつてね。

○昔のコンスタンチノーブル、今イスタンブル

オリンピック航空で（大層な御名前で）イスタンブルへ。ギリシヤ出入国は結構うるさく、パスポートのスタンプもきっちり。国境通過で、わざわざスタンプを押してくれと頼む人もいるというから、まあ記念には良いわな。

ビザンチウム、コンスタンチノーブル、イスタンブルと数奇な運命と共に名前を変えたこの都については、塩野七生の「イスタンブルの陥落」に詳しい。余談だが塩野七生ってのは、最近乱作のキライはあるが、俺は好きだな。考証もし

っかりしているし、男勝りの文章を書くよ。

トルコ、ギリシヤ、キリスト教、イスラムの文化が交錯するこの都市も、短時日のコースは、ソフイヤ寺院、ブルー・モスク、トプカピ宮殿と決まっている。ただ、トプカピでは、馬鹿でかい宝石やハレムよりは、世界一と言われる古伊万里中心の陶器に圧倒された。

○ロシアより愛をこめて

もう一つの目玉は、グランドバザール、市場はいいね、市場は。大部分がニセ物だったり、法外な値段をふっ掛けてから商売を始めるのも氣にいった。なーに、バナナの叩き売りで鍛えた腕だ、俺も一丁葛飾柴又から足を洗って、トルコで売人をしようかなあ。啖呵^{ダンカ}売なら負けなが、トルコ語と蛇ののめくった様な字は困るなあ。

もう一個所、地下宮殿がある。ユスチニアヌスの作った地下水路だが、イアン・フレミングの小説「ロシアより愛をこめて」と、その映画化で有名となった。再び上野さんに解説して貰う。

ロシアより愛をこめて 日本題名007 危機一発（センスないなあ！）

日本上映時期 昭和三十九年

女優 ダニエラ・ピアンキ

主題歌歌手 マット・モンロー

その他 007シリーズ第2作。同シリーズの最高傑作。娯楽映画としても抜群の面白さで、イスタンブールなどの現地ロケの効果によって、異国情緒を漂わせ作品に花を添えている。

○ウスキュダラはるばる尋ねてみたら

ボスポラス海峡を渡ると、アジア、ヨーロッパ2大陸の間を渡ったと言う証明書をくれるが、よく見るとトルコ現地の物でなく、旅行業者の証明書、セコイ事をするなあ。

ウスキュダラ（ユスキュダル）は、海峡をはさんでイスタンブールの向う岸、漁師や庶民の街で、バザールも小さい。フェリーはイスタンブールへ入るのは無料、出るのは有料。昔、江利チエミが、「ウスキュダラはるばる尋ねてみたら、世にも不思議な物語り……」と歌い、髭をはやし堂々たる体軀の案内人ベダットも、可愛い声で歌ってくれたが、ツアーの添乗員小島直子さんによると恋の唄だと言う。

ユスキュダル 大島直政 訳

ユスキュダルを歩いていたら、にわか雨が降って来た

私の愛する人の上衣は長く、裾は泥だらけになってしまった

あの人は目が覚めたばかり、その眼はまだねむたそう

あの人は私のもの 私はあの人のもの 誰の知ったことでもありやしない！

長く白い上衣は あの人にとってもよく似合う （2番略）

知らせてくれた便せんはローテンブルグから。彼女には旅がよく似合う。

○正月は駄目よ

再びアテネに戻り、フリータイムを利用して国立考古学博物館へ。シンタグマ広場から道を聞きながら歩く。シェリーマンがミケーネで発掘した黄金仮面、サラミスの海戦を記念したポセイダンの像、サントリーニ島出土のボクシングをする少年など、見たい物は多く時間は少ない。正月は駄目よとわかっていても、たとえ高くても、混んでいても、サービスが悪くても、又来たい所ではあった。

寅さんの与太話にしては酒が出てこないって。ギリシヤのウヅも、トルコのラクモどちらもいけるが、好みで言えば、



エーゲ海・ヘルメス号で

ギリシャのウゾで、トルコのシシケバブを食べたいなあ。
親切に教えていただいた上野さん、有難うございました。
ツアーで御世話になった上に、旅先からウスクダラの歌詞を教えて下さった、小島直子さん、又何かのツアーでお目にかかりたいですね。



イスタンブール・地下水路

ピレウス・ロブスターはまだ



アテネ・国立考古学博物館



編集室へのお便り

波久鳥一〇号御贈呈に接しいつも乍らの御厚情に厚く厚く御礼申し上げます。

御地を離れまして二十数年となり老令と共に身心共に老い、足腰も弱まり老妻と共に山の中で静かに生活いたして居り、過ぎし御地生活の事も唯々夢の如く思い出となって居ります。

皆々様の御健康を祈ります。以上

鎌倉市浄明寺六二八

今井 寅雄

(一・一二・一一)

御無沙汰しております。「波久鳥」御送りいただき有難うございました。久しぶりで皆様方の御活躍振りにせつし大変なつかしく思いました。小生まだ凡々と勤め人生活をしております。

益々の御発展を祈ります。

静岡市大谷三八〇〇一九二

一方井 卓四郎

(一・一二・一二)

今日は十二月八日!!大東亜戦争の開戦記念日に当り、室蘭で迎えた当日朝の光景を生々しく思い浮べて居ります。

此度は又「波久鳥」第一〇号を御郵送下さって、なつかしく嬉しく受取りました。親交会に相応しい内容の雑誌「波久鳥」を十年も続けて発行して居られる編集委員の先生方や、それを支える親交会の諸先生の根気よい御努力に対して深く敬服して居ります。畑仕事も一段落しましたので、これから日向ぼっこしながら楽しみに読ませてもらひます。

こちらは二十日間以上も晴天続きでカラカラに乾いた異常天候で、朝晩は相当冷え込んで来ましたが、日中は風もなく、家の中には二十度を越すポカポカした暖かさで未だ火の気なしで過ごして居り、十二月とは思えない気候で、こんな冬は千倉に住んで初めての経験です。今後の冬の気候が案じられます。

庭の温州みかんの実も色づいて、収穫を待つて居り、さざん花、椿の花も見頃になりました。

去る六月には、昔、教鞭を取った樺太真岡第二小学校の同窓会が富山市で開催され招待を受けて、喜んで出席し、教え

子四名に再会出来て大喜び致し、序でに能登半島を観光バスで一周して参りました。

又、十月には、室蘭製鉄所病院看護婦養成所出身者の第一回同窓会が、愛知県知多半島南端の内海町で開催されて、大分、室蘭、君津、名古屋から四十名程集って大盛会で招待を受けて出席しましたが、本庄先生も御出席されて一年振りの再会を喜び合ひました。序でに犬山市の明治村を案内されて見学し、札幌市内にあった石造の電話局の建物にはなつかしさ一入でした。

日頃の御無沙汰を御詫び申し上げ親交会の諸先生には呉々も御自愛下さって御健勝で良い新年を迎えて下さい。

一筆受取の御礼を申し上げます。

千葉県千倉町瀬戸二三六〇

高橋 清藏

(一・一二・八)

本年も残り少くなりました。

御無沙汰申し上げておりますが、益々御清勝のことと存じ上げます。

会誌「波久鳥」第一〇号を御送り下さいますして誠に有難うございました。なつ

かしい皆様方の御活躍が眼に浮かび、大変嬉しく拝見させていただきました。御蔭様で小生も元気で過しております。当地方おいでの節は御立寄り下さい。まづは右御礼まで。

草々

静岡県田方郡中伊豆町上白岩一〇〇〇
中伊豆温泉病院

齊藤 幾久次郎

(一・一二・二二)

大部寒くなりました。御当地は雪の世界でしょうか。諸先生御変りなく御過しのことと存じます。

「波久鳥」十号御贈り頂き、嬉しく拝見致しました。今後ますますの御発展を祈り居ります。

日立市大久保町一丁目三の一四

稲葉眼科医院

稲葉 真

(一・一二・一二)

御無沙汰致してをしますが、その後皆様方には御健勝にお過しの事と存じます。この度は波久鳥十号をお送りいただき真にありがとうございます。

お送りいただくたびに先生方の作を非

常に楽しく拝読させていただいてをります。

室蘭を離れてから早や十三年を経過致しましたが時々テレビにうつしだされる室蘭の景色に懐かしさを感じてをります。どうぞ諸先生方にも健康に留意されよいお年をお迎えなさる様お祈りしてをります。

草々

横浜市緑区荏田北二丁目十六一六四

久保 茂俊

(一・一二・一六)

拝啓 此度波久鳥十号をお送りいただき誠に有難うございました。厚く御礼申し上げます。

白鳥湾にも厳しい冬の便りが舞いこんでくる頃となってきましたが、どうぞ皆様御自愛の程を心から祈念申し上げます。御礼まで。

敬具

札幌市豊平区清田六条一丁目一六一

七

大坪 一昌

(一・一二・六)

アジア・オセアニア学会出席その他諸々で他出し帰札して大雪に一驚!!除雪した苦勞も束の間……朝には見事に積って

居ました。それを尻目に稚内迄帰って来ましたら昨年一年分位の大雪が積り未だ降り続いて居ます。

留守中の書類の山の中に「波久鳥」十号を見つけ出し早速会の皆様の顔を思い出し乍ら御礼状を書いて居ります。本当に有難うございました。

そろそろ恒例の忘年会で「波久鳥」をめぐってまた話の花が咲くと思います。遥かに皆様また会のご隆昌を祈って居ります。

稚内市こまどり二丁目七一

国療稚内病院

小國 親久

(一・一二・一三)

前略 このたびはまた波久鳥第十号をお送り頂き、なつかしく拝読致しました。諸先生方のご活躍の程が偲ばれ、座談会「十年一流れ」では歴代の編集委員の方々のご苦勞がまぶたに浮ぶ様です。

平成元年もあと余すところ旬日ですが、室医親交会の益々のご発展と会員諸兄弟のご健勝を心よりお祈り申し上げて居ります。

草々

函館市海岸町二四番四号

函館検疫所

山本 健三郎

(一・一二・一二)

この度は波久鳥をお送り下さいまして誠にありがとうございます。

当院での研究資料として大いに活用させていただきます。

厚くお礼申し上げます。

貴会のますますの御発展を心より祈念致します。

登別市登別東町三一九

北海道大学医学部附属病院登別分院

阿岸 祐幸

(一・一二・五)

暖い冬のんびりして居りましたら急にお寒くなりあわて、おります。

いつもお心にかけて頂き「波久鳥」お贈り頂きありがとうございます。

編集の諸先生のお心使い、なごやかな座談会など伝って参りなつかしく拝見致し主人にも報告致しました。

今年も早や師走ともなりました。

お寒き折呉々も御自愛なさり御活躍下さいませ。先づは御礼まで。

水戸市千波町三九五―二

松岡 志げ子

(一・一二・一三)

クリスマスの飾り付けが街を掩ひ人出も一段と繁くなり平成元年も残り僅かとなりました。

此度は又「波久鳥」お送り下さいまして、厚く御礼申し上げます。

貴親交会の先生方をはじめ『編集室へのお便り』に先生方の御消息も総て懐しく拝見させて頂き想ひ出多い室蘭を想ひ出して居ります。有難う存じました。

何卒諸先生には御自愛下さいまして佳き新年をお迎へ下さいます様。御健勝と御発展を祈り上げます。可しこ

東京都大田区蒲田四・一・一一

青山 芳江

(一・一二・一三)

一年を締め括るかの様に「波久鳥」が訪れました。

いつもお心にお懸け頂きありがとうございます。

この度御縁がございまして息子が日鋼グループに参りました。何かとお世話に

なることもあるかと存じますので、何とぞよろしく願ひ申し上げます。

何卒諸先生方良いお年をお迎えなさいます様念じ上げます。

御礼まで。可しこ

札幌市北区新琴似七―二

新琴似ハイツ二一六

木谷 静子

(一・一二・一四)

今秋は割合暖くすごしましたが昨日辺りからそろそろ小雪に見舞われ、冬への行進がはじまりました。

諸先生皆様には御清祥に御多忙の毎日をおすごしの事と御拝察申し上げます。本日思いがけず「波久鳥」第十号を御届け下さいます誠にも有難うございました。

昭和五十五年創刊と承りまして、丁度亡くなりました年で奇しき思いに早速佛前にお供え致しまして報告致しました。亡き主人に代りお懐しく拝読致しました。

諸先生の御厚情深く感謝致しまして心から御礼を申し上げます。

寒気加わります砌、御大切に佳いお年

をお迎え遊ばします様御祈り申し上げます。
可しこ

室蘭市東町二丁目十二番十二号

有賀 多賀

(一・一二・一一)

拝啓 時下益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

このたびは、波久鳥第一〇号を御寄贈下さいますありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

貴重な研究資料として永く保存し利用させていただきます。

なお、今後とも発行の折は御恵送くださいますようお願い申し上げます。

砂川市西四条北二丁目六番地一

砂川市立病院

院長 南須原 浩一

(一・一二・一八)

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。このたびは、波久鳥第一〇号を当医師会にご恵送いただき誠に有難うございました。

本会に保存し貴重な資料として活用させていただきますと存じます。

略儀ながら取敢えず御礼申し上げます。

敬具

上磯郡上磯町中央三丁目三番二〇号

渡島医師会

(一・一二・四)

時下、ますますご清祥のことと存じ、お喜び申し上げます。

さて、この度は波久鳥第一〇号を港の文学館へご恵贈賜り、厚くお礼申し上げます。

早速整理保存のうえ、広く市民の方々にご利用頂く所存でございます。何分にも、皆様お一人お一人のご協力で成っておりますこの港の文学館でございますので、今後ともよろしくお力添えくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

市立室蘭図書館

館長 山口 智

(一・一二・二九)

「波久鳥」第一〇号ありがとうございます。私が主治医の阿部先生はじめ、上田先生、斉藤先生などうれしい顔振れの方々のエッセイのしくよませていただ

きました。

そして加藤先生の編集後記の最後のひとこと、実によく効いていてうれしいです。今後共よろしく。

室蘭市幕西町一番一号

稲月 螢介

(一・一二・二〇)

知利別町の工藤富美様から波久鳥の札の電話をいただきました。

(一・一二・一三) 事務局

会 員 異 動

平成元・10～平成2・9

年	月	日	事由	氏 名
2	4	15	逝去	高 田 芳 朗

元会員の方への 編集室からのおねがい

皆様お変わりございませんでしょうか。いつも親交会に励ましのお言葉をいただき有難うございます。お陰様で昨年「波久鳥」も十号を発行できました。

親交会からは創刊以来、旧会員の先生とご家族に発行の都度、本誌をお送りしてきましたが、編集委員会の話の中で、今後も増加する一方の旧会員とご遺族にこれまで通り進呈するのは場合によっては、寧ろ迷惑ではないだろうかとの反省の声が有りました。確かに既に室蘭を離れて幾年も経ち、親交会とのかかわりも薄らいだ方も居られましょうし、「編集室へのお便り」欄を設けているので、お礼の挨拶を催促しているように感じられる方もいらっしゃるかも知れません。

この事について会長、副会長、編集委員とで話し合いを行い、会員が退会されてから三年は従来通りに本誌を進呈し、それ以降は本人の希望を受けるようにしてみては、との意見で纏りました。

取り敢えず今回十一号をお届けする機

会に皆様の希望を知りたいので、返信用のハガキを同封させていただきます。

若し、今後も継続して希望される場合は、お断りの連絡があるまで送りますし、次号から不要の場合は本号を以って終らせていただきます。そして何ら返事が無ければ退会後三年までお届けして、そのあと送付を打ち切らせていただくことに致します。

本誌を受け取られて喜んでいただけるのが編集委員としては望ましいのですが、不要なものを押し付けていたとしたら、どうぞ遠慮なく連絡して下さいようにお願い致します。どうか忌憚のない回答をお知らせ下さい。

以前は旧会員の先生から度々、本誌へ玉稿を寄せていただきましたが最近是有りません。室蘭在住の会員としては先生の近況や、趣味、エッセイなどは是非聞かせいただき度いと思います。

かつては先生方に育てていただいた親交会であり、「波久鳥」ですので、現会員と同じく、本誌へ投稿していただいて発展、継続して行くように協力して下さいことを切にお願い申し上げます。

(文責 大久保 洋平)

親交会のおもな行事

○ 受賞祝賀会及び忘年パーティ

平成元年12月15日

於 室蘭プリンスホテル

○ 平成2年度定期総会・懇親会

平成2年5月25日

於 ホテルサンルート室蘭

○ 親睦旅行

平成2年7月7日・8日

函館・湯の川・吉岡海底駅

○ 秋の行楽会

平成2年10月1日

於 蘭亭



編集後記

もう一年が過ぎてしまいました。地球の回転がだんだん速くなったのではないのでしょうか。

あのあと世界は目まぐるしく変わってしまいました。共産圏諸国の変革、新ドイツの誕生、中東のきな臭い現況等々。そのたびに日本もあっちへこっちへと振り廻されている一年でした。この地球の遠心力で何処かへ飛ばされてしまわないように必死にへばりついているのがやっとの心境です。こんな世相に目をつぶり、耳を塞いで十一号を編集しました。

四月に高田芳朗先生が亡くなられました。前回「インド雑感」で素晴らしい絵と文章で本誌を引き立たせていただいたのに、誠に残念です。また「波久鳥」創刊以来ずっとお世話をして下さった室蘭印刷の幸松元三氏も五月に他界されました。お二人のご冥福を心からお祈りします。高田先生につきましてはお付き合いの長かった沢山先生にエピソードを紹介していただきました。

藤兼先生、安齋先生、加藤先生にはお得意のところで本号の前半を飾っていただきました。

国本先生の「紅い海」は、まるで洋画のシーンを思い浮べる光景です。

鴨井先生のモータリストラップの小樽紀行、遠藤先生の第二十四回北海道クイズゴルフ大会参戦記を本誌に寄せていただき有難うございました。

広瀬先生の親睦旅行記に註釈をつけていただきましたが、宿泊した啄木亭の庭園が由緒あるものとは知らず、じつくりと見て来なかったのを後悔しています。

上田先生の寅さんシリーズ（海外篇）次回も是非お願いします。

座談会「夏の夜のおしゃべり」はカラオケ嫌いの演歌好き、演歌嫌いでカラオケ上手、艶歌おまかせの方にも集っていただいて口から出まかせ、勝手気儘にしゃべってもらった次第です。

十一号を契機として表紙が色刷りに成りました。原画は変化に富んだ美しい室蘭の海岸の景色を貼り絵で表現した加藤先生の力作です。既に幾枚かの画が用意されているので、次号からもつぎつぎと登場します。乞ご期待。

また本号から活字を一級大きくして、紙も光沢の少ないものに替えてみました。少しは読み易くなったでしょうか。

四号からの編集委員神島章先生が退かれ、今年から斎藤美知子先生に加わって貰いました。最も若く、はじめての女性委員の登場です。その活躍を大いに期待して下さい。

また医師会事務局の皆さんには座談会の録音や、最新のワープロを使つての原稿の清書、配本など、いつも大変なお手伝いをしていただいております。

（大久保 記）

「波久鳥」十一号編集委員

加	村	澤	児	遠	三	斎	大
藤	井	山	玉	藤	村	藤	久
治	幺		直	秀	博	美	保
良	乙	豊	彦	雄	通	知	平
						子	

親交会会誌 波久鳥

発行日 平成二年十二月一日

発行所 室蘭市医師親交会

印刷所 室蘭印刷株式会社